

第1回

札幌市廃棄物減量等推進審議会 2R部会資料

令和8年(2026年)9月2日

1 報告事項 市民参加の取組状況（ワークショップ等）

1 報告事項 市民参加の取組状況

————— P.2

2 部会の進め方

3 札幌市の取組状況と他都市事例

市民参加の取組状況について（ワークショップ）

■ 開催概要

【テーマ】

- ・ これからのごみ減量・資源循環について考えよう

【日 時】

- ・ 8/9（日） 13:30～16:30

【会 場】

- ・ HOKKAIDO xStation01
中央区北5条西5丁目1番地5JR 55 SAPPORO 6階

【対 象】

- ・ 満18歳以上の札幌市民

【参加人数】

- ・ 16名の市民が参加
(10代2名/20代1名/30代2名/40代3名
/50代3名/60代3名/70代以上2名)

【グループ】

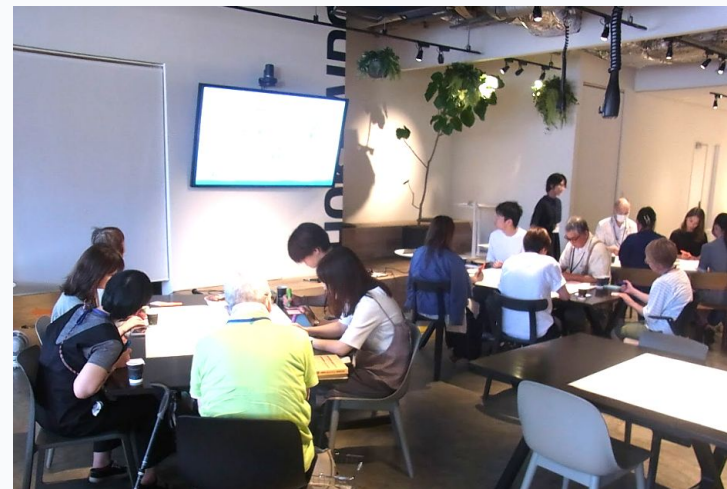
- ・ 3つのグループに分かれて議論

【ワークショップで出た意見】

- ・ 次頁に記載



【当日の様子】



市民参加の取組状況について（ワークショップ）

Q1 普段の暮らしの中で、ごみの減量について意識していること、悩みや課題はどんなことですか。

拠点回収に出しづらい

- 拠点回収場所がわからない
- 回収場所が遠い、車がない
- 持って行くのが手間 など

容器包装プラスチック、雑がみの悩み

- 容器包装プラか否かの判断が難しい
- 家に置き場所が無い、店で捨てたい
- どうやって再資源化されているのか知らない など

食品ロスや生ごみ減量の情報不足

- フードバンクの窓口がわからない
- 事業者からの食品ロスや、事業者への指導が知りたい
- 職場での分別基準が甘い など

リユース・その他など

- 市の販売場所（リユースプラザ）の場所を知らない
- リユースする場所や機会が少ない
- バッテリーを内蔵した製品の捨て方がわからない など

Q2 ごみの減量や資源循環について、「すでにできていること」「まだできていないこと」はどんなことですか

「すでにできていること」

- 拠点回収
- 回収協力店舗に出している
- 水洗いして汚れを取り除いている
- 資源化できるものは分別している
- フードロスを出さないように買いもの調整している

「まだできていないこと」

- 生ごみの堆肥化
- わかりやすいプラ、紙、びん・缶・ペットボトルなどは分別できているが、その他のプラがまだイマイチわからない
- 分別のためのごみ箱がない
- 家族へのごみ分別方法の共有（最終的に自分がやっている）
- 不要なものを買わない（リフューズ）

市民参加の取組状況について（ワークショップ）

Q3 ごみの減量や資源循環について、「まだできていないけれど、これからやってみよう」と思っていることはありますか

【拠点回収】

- 民間企業等の、札幌市以外が行っているペットボトル回収・牛乳パック回収の利用
- 拠点回収の利用

【シェアリング】

- シェアリングサービス全般の利用（自転車・マイバックなど）
- 買い物かごのシェアリング（QRコードで管理、スーパーで回収）

【リユース・リサイクル】

- リユースショップの活用・古着のリユース
- リサイクルをもっとする
- フリマアプリを使用するとき、送る際の緩衝材再利用

【買い物】

- 簡易包装を選ぶ
- 長く使えるものを買う（服など）、捨てる前提で買わない（格安商品など）
- スーパーのポリ袋をなるべくもらわない（リフューズ）

【その他】

- 生ごみをあまり出さないようにする、堆肥化を行いたい
- マイバッグ・マイボトル（水筒・タンブラー）の利用

Q4 どんな要素や環境があれば、もう一歩ごみ減量や資源循環の行動に踏み出せそうでしょうか

拠点回収・店舗回収の場所の増加

- 地下鉄駅に回収BOXを置いてほしい
- マンションに24時間利用できる資源物の置場が欲しい
- 児童会館や学童に回収拠点の設置 など

市の分別周知や普及啓発の充実

- アプリでのAIを用いた分別検索機能
- 学校の授業での教育
- 行政による、企業努力への歩み寄り など

堆肥化をしやすい環境の整備

- 生ごみ堆肥を利用した家庭菜園スタートキットが欲しい
- 海外のように、有料定額の公共コンポストの設置
- 生ごみ処理機は費用がかかる、置き場所に困る など

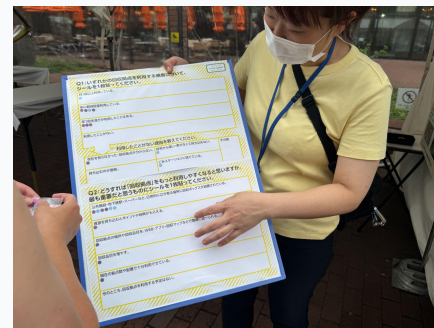
ごみ減量の取組の充実

- 手入れや修理、長持ちさせるコツの共有
- ごみ減量をすることで、なにかに使えるポイントの付与
- 傘のシェアリングなどの普及 など

市民参加の取組状況について（オープンハウス）

【実施概要】

- 日時：2026年(令和8年)8月20日(木)～23日(日)
- 場所：スイーツガーデンSAPPORO2026（赤レンガテラス）にて実施
- 方法：ごみ減量と資源循環等についてのパネル展示を行い、回収拠点の利用頻度、利用促進について質問し、シールを貼って回答を収集



考えてみよう! ごみの減量と資源循環

札幌市の家庭から出るごみは、年間約33.8万トン。これを市民1人あたりに換算すると、約172kgになります。きちんと分別し、ごみを減らすために、何ができるのか考えてみましょう。

札幌市の家庭からでるごみの量(令和7年度)



合計 **33.8** 万トン 市民1人あたり **約172** kg



なぜごみを減らし、資源循環が必要なの?

ごみの減量や正しい分別・リサイクルは、私たちの生活環境を守り、持続可能な社会をつくるためにとても大切です。

埋立地の延命化

ごみが燃え続けると、将来、埋立地の確保が困難になっていきます。埋立てのごみを減らすことが大きな課題になっています。

家庭ごみの年間埋立量は

約2~3万トン 埋立率 約3~4 万トン分



温室効果ガスの削減

ごみ焼却の際には温室効果ガス(CO₂)が排出されます。リサイクルや減量を積極的に行うことで、CO₂を削減していきます。

CO₂の年間発生量は

約17.7万トン 削減率 約7.2 万トン分



一人ひとりの分別と減量が、札幌の環境と未来を支えています。

おでかけついでに スマート3R

～回収拠点を上手に使って、お得に減量&らくらく循環!～

持ち込みの 3大メリット

- 1 まとめて出せる**
品目ごとに別々の収集日を待つ必要がなく、いろいろな種類の資源物を1か所でまとめて処分できます。
- 2 土日に出せる**
生活リズムに合わせて土日や夜間でも利用でき(24時間受付の民間拠点等)、買い物や通勤のついでに自分のタイミングで持ち込めます。
- 3 無料で出せる**
小家電・古電などをごみステーションに出す際は指定ごみ袋(有料)が必要ですが、拠点なら「無料」で持ち込めます。



何に生まれ変わるの?

集めた資源物は、選別や処理、加工などを行い、再商品化されています。



Q1: いくつかの回収拠点を利用する頻度について、シールを1枚貼ってください。

月1回以上利用している。

年に数回程度利用している。

年1回未満だが利用したことはある。

利用したことがない。

利用したことがない理由を教えてください。

存在を知らなかった・回収拠点が分からない。 自宅から遠い・車がなくて持ち込めない。 その他

持ち込むのが面倒。

ごみステーションに捨てている。

Q2: どうすれば「回収拠点」をもっと利用しやすくなると思いますか。最も重要だと思うものにシールを1枚貼ってください。

公共施設・地下鉄駅・スーパーなど、日常的に立ち寄る場所に回収ボックスが設置されている。

資源を持ち込むとポイントや特典がもらえる。

回収拠点の場所や回収品目を、WEB・アプリ・回収マップなどで簡単に調べられる。

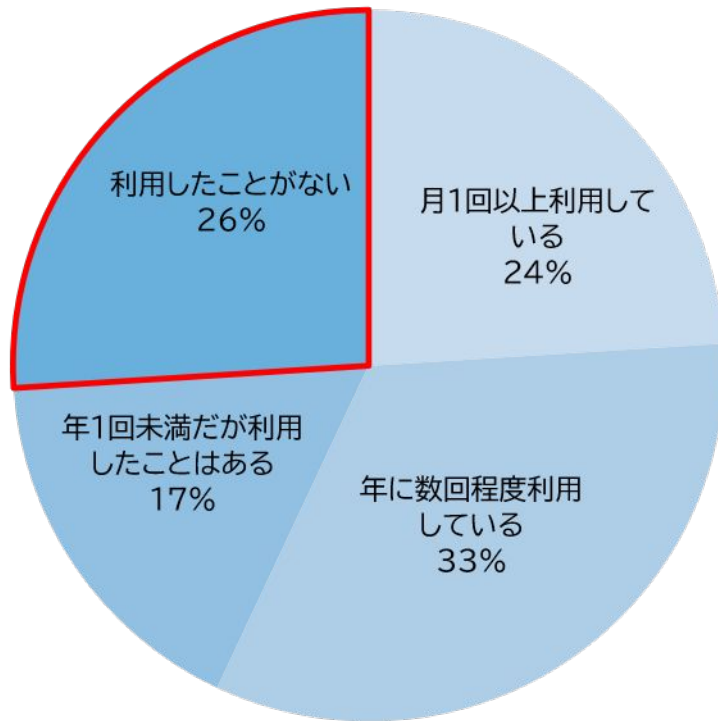
回収品目を増やす。

現在の拠点数や配置で十分利用できる。

今のところ、回収拠点を利用する予定はない。

市民参加の取組状況について（オープンハウス）

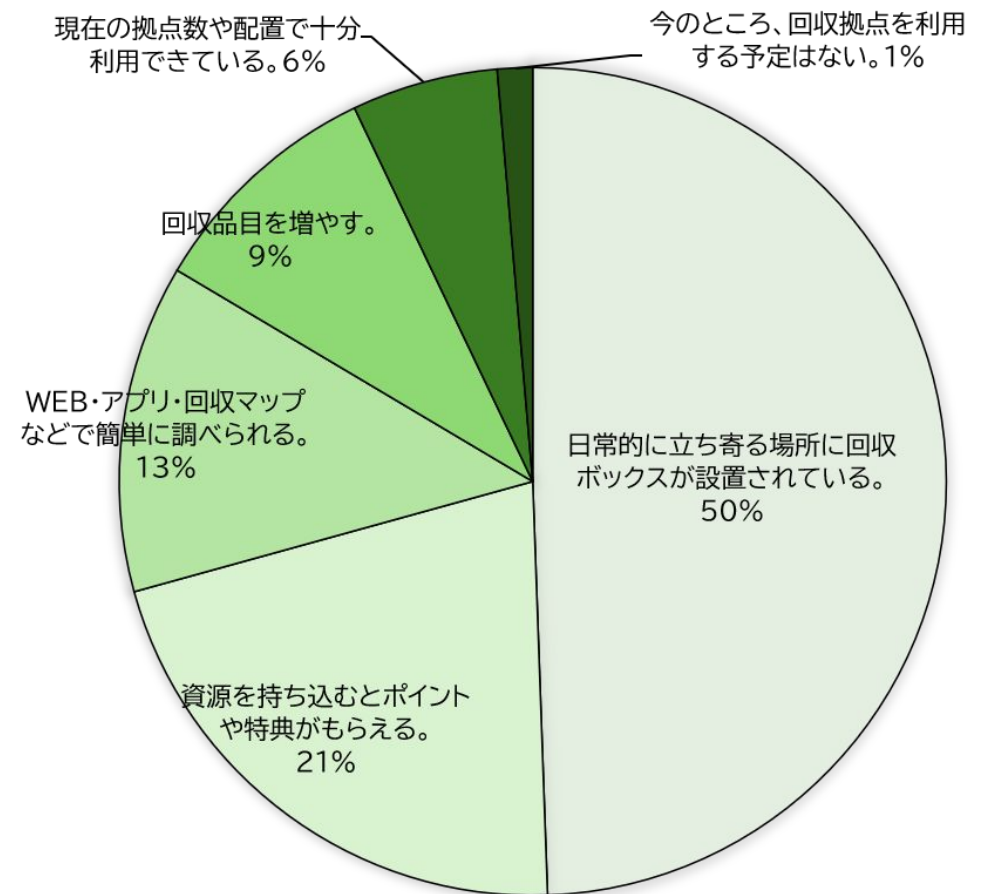
Q1：いずれかの回収拠点を利用する頻度について1つ選んでください。（回答数437件）



【利用をしたことがないと回答した26%の内訳】

- 8%：「自宅から遠い・車がなくて持ち込めない」
- 7%：「ごみステーションに捨てている」
- 5%：「存在を知らなかった・回収拠点が分からない」
- 4%：「持ち込むのが面倒」
- 2%：「その他」

Q2 どうすれば「回収拠点」をもっと利用しやすくなると思うか最も重要なものを選んでください。（回答数437件）



2 部会の進め方

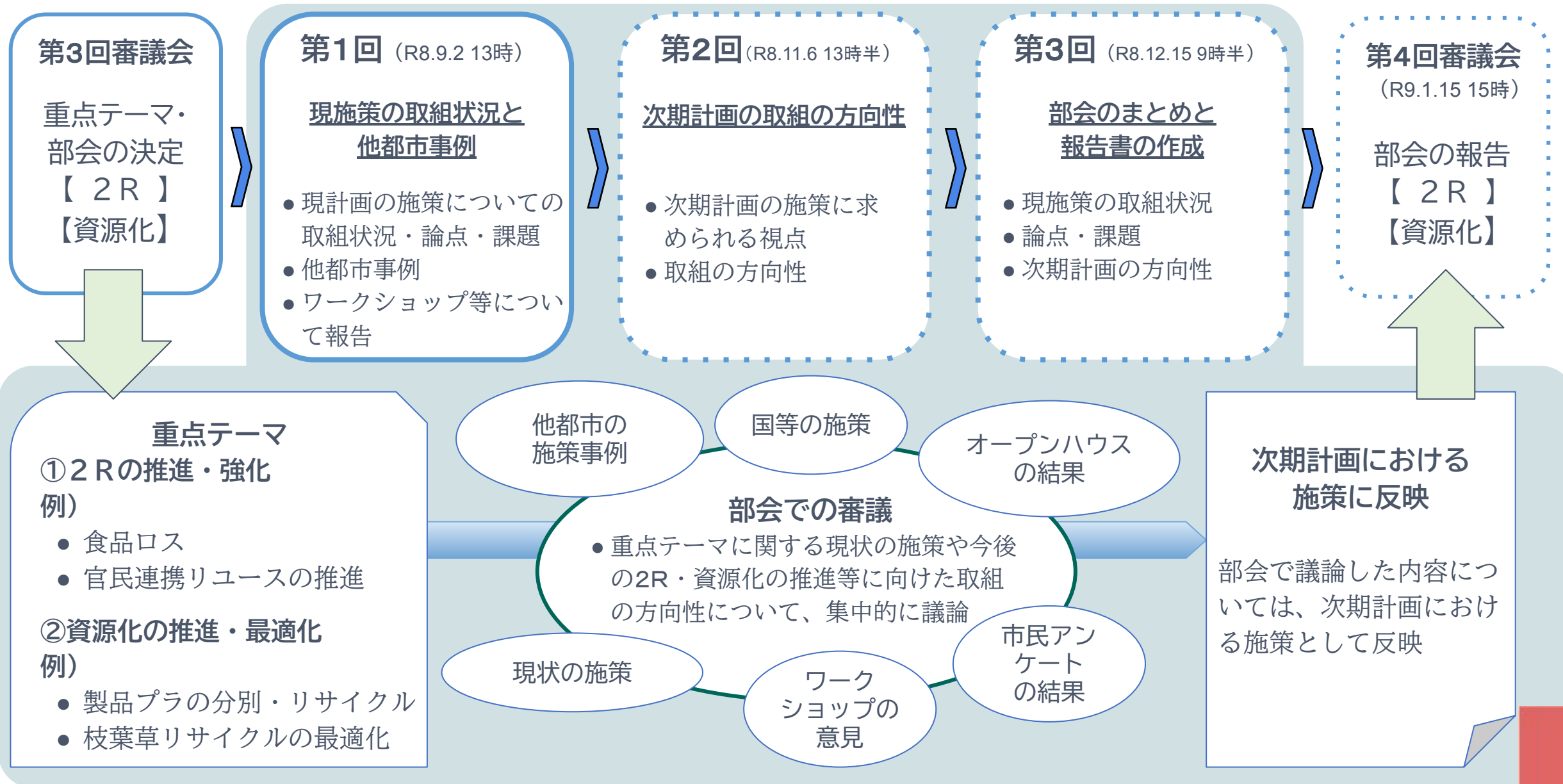
1 報告事項 市民参加の取組状況

2 部会の進め方

_____ P.8

3 札幌市の取組状況と他都市事例

部会全体の流れ



INDEX

3 札幌市の取組状況と他都市事例

1 報告事項 市民参加の取組状況

2 部会の進め方

3 札幌市の取組状況と他都市事例

札幌市における2R施策

別紙1

現計画の施策体系

別紙2

参考資料

- 2R(リデュース・リユース)とは
- 札幌市における2R施策
- 他都市事例

P.10

P.11

P.37

2R（リデュース・リユース）とは

改めて… 2Rとは？

2R

Reduce（リデュース）…発生抑制つまり、最初からごみを出さないこと

Reuse（リユース）…再使用、繰り返し使うこと

排出自体を行わない&繰り返し使うことで、新たな製造やリサイクルに必要な資源やエネルギーを削減
➔ 環境負荷が小さい

国・道・市の方針など（抜粋）

国

【第五次循環型社会形成推進計画など】

- リユースのビジネスを推進し、リユース等の促進に関するロードマップやサステナブルファッションの推進に向けたアクションプラン等を策定
- ワンウェイプラスチックの排出抑制を推進

北海道

【北海道循環型社会形成推進基本計画】

- 廃棄物等の処理に由来する環境負荷をできる限り低減するため、第1に発生抑制、第2に再使用、第3に再生利用、第4に熱回収、最後に適正処分を行うという方針

札幌市

【第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン】

- 家庭や事業所などから排出されるごみの減量などを推進するため2Rを中心とした3Rを促進

1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践

事業者と連携したレジ袋削減や容器包装の簡素化に向けた取組

レジ袋削減に向けた取組に関する協定・指定ごみ袋を活用したレジ袋削減実証事業

- 平成20年度から、「レジ袋削減に向けた取組に関する協定」を事業者、市民団体と結び、三者協働でレジ袋の削減を推進
- ごみ減量と二酸化炭素の削減を推進し、循環型社会の実現と地球環境の保全を図ることを目的として、市民、事業者、行政が協働して、札幌市内で利用されるレジ袋の削減を目指す
→マイバッグ持参率は約85%、削減枚数の累計は取り組み開始18年目で、LL版レジ袋換算で19億枚超。CO₂の削減量は90,382トン
- 指定ごみ袋を1枚単位で販売し、レジ袋代わりとして活用（R7.2~3月）
→市内4社180店舗で実施し、総販売数は166,000枚
- 実証期間中のレジ袋利用率は0.7%減（15.5%→14.8%）。年間のレジ袋販売枚数を2,000万枚と仮定すると、85万枚の削減に相当

容器包装の簡素化

- 「北海道容器包装の簡素化を進める連絡会」に参加し、関係機関と協働でパネル展の開催など、容器包装簡素化への取組を実施
令和7年パネル展来場者数1,295人



1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践

札幌ごみ減量実践活動ネットワーク（さっぽろスリムネット）

- ごみ減量につながる具体的な行動を展開することを目的に、市民・事業者・札幌市の協働で設立した「札幌ごみ減量実践活動ネットワーク」（通称：さっぽろスリムネット）を通じて、ごみ減量・資源化事業、出前講座等の普及啓発活動を実施

<事業例> ※令和7年度実績

○さっぽろスリムネットフォーラム

⇒テーマに応じたゲストを招いて講演・ディスカッションを行うフォーラムを実施
（会場参加66人、収録動画の再生数300回以上）

○「3Rでお片づけ」セミナー

⇒心身ともに元気なうちに物を片づけるコツについて、3Rの考え方を交えながら解説
（会場参加91人、収録動画の再生数98回（期間限定））

○ゲームでエコを学ぼう！

⇒ゲームを通して、分別やごみ減量を学べる環境教育講座



<構成団体>

・市民団体

NPO法人北のごみ総合研究所
（公社）札幌消費者協会
定山溪連合町内会

・事業者・事業者団体

イオン北海道(株)
紙パック回収指定業者の会
コアレックス道栄(株) 札幌営業所

・行政

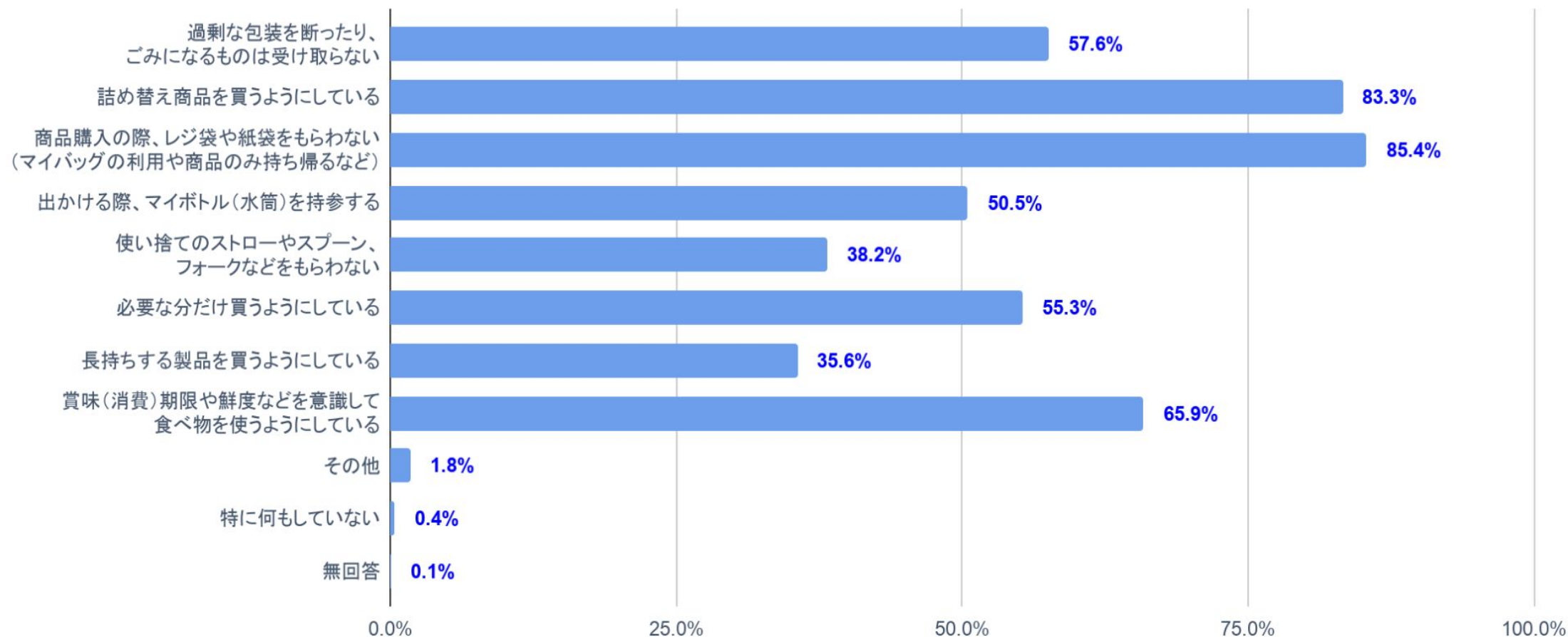
（一財）札幌市環境事業公社
札幌市製紙原料事業協同組合
（一社）札幌青年会議所
（株）ばんけいリサイクルセンター

札幌市（環境局）

1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践

【リデュースに関する市民意識調査（R7）】

Q.ごみを減らす（リデュース）ために、あなたが行っていることは何ですか。 n=2,519



1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践 1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

ごみ減量キャンペーン・ごみ減量実践事業

ごみ減量キャンペーン（生ごみ減量以外の事業も含む）

- 令和4年度まで実施した、市民によるごみ減量の取組を進めるため施策

平成28年度～令和元年度

日曜日は冷蔵庫をお片づけ。

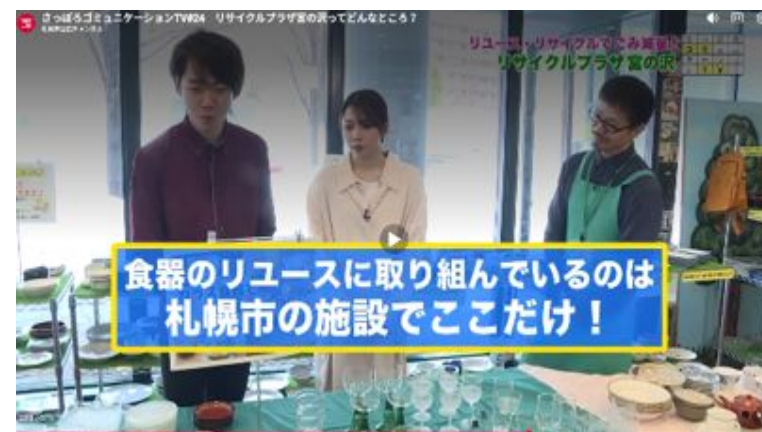
- 家庭から発生する食品ロスの削減を目的として、「日曜日は冷蔵庫をお片づけ。」キャンペーンを実施
- 週に一度、冷蔵庫内の食品を点検し、賞味期限・消費期限が近い食品や傷みやすい食材を優先的に使い切ることを呼びかけるものであり、パンフレットや動画、セミナー等を通じて市民の行動変容を促進



令和元年度

さっぽろコミュニケーションTV

- ごみ減量・リサイクルに関する情報を動画で発信する「さっぽろコミュニケーションTV」を実施
- ごみの分別方法や食品ロス削減、生ごみ減量、リユース推進等をテーマとした動画を制作し、市民が楽しみながら学べる情報発信を行うことで、ごみ減量に向けた意識啓発と行動変容の促進



1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践 1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

令和2年度

#おうちでエコササイズ・#おでかけエコササイズ

- 家庭内での食品ロス削減と外出時の使い捨てプラスチック削減をテーマとして実施
- 冷蔵庫の整理や食材の使い切り、マイボトル・マイバッグの利用など、日常生活の中で実践できるごみ減量行動を動画やパンフレットで紹介し、「エコササイズ」として楽しく継続することを呼びかけることで、市民の行動変容を促す普及啓発を実施



令和3年度

#お買い物でエコササイズ・#脱プラでエコササイズ

- 食品ロス削減と使い捨てプラスチック削減をテーマとして実施
- 買い物前の冷蔵庫確認や必要量の購入、てまえどりの実践、マイバッグ・マイボトルの利用など、日常の買い物行動の中で実践できるごみ減量行動を動画やパンフレットで紹介し、ごみの発生抑制に向けた市民の行動変容を促す普及啓発を実施

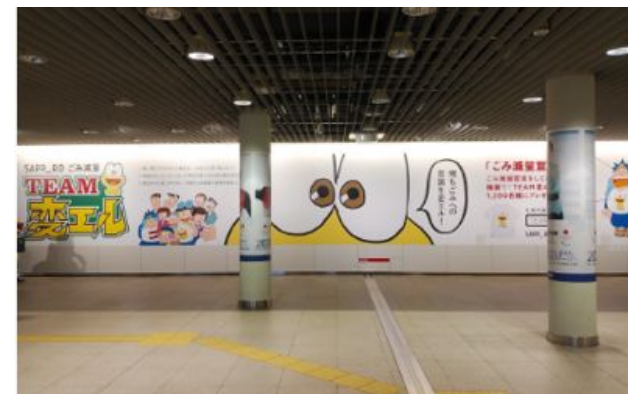


1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践 1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

令和4年度

ごみ減量TEAM変エル

- 幅広い世代へのごみ減量意識の浸透を目的として実施
- 人気キャラクター「ど根性ガエル」のぴよん吉をPRキャラクターに起用し、市民が自らごみ減量行動を宣言する「ごみ減量宣言」や、ごみ減量アイデア募集を実施
- 地下歩行空間や地下鉄広告、テレビ、SNS等を活用して情報発信を行い、市民のごみ減量に向けた行動変容を促す普及啓発を展開



ごみ減量実践事業（生ごみ減量以外の事業も含む）

- 令和5年度以降は、従来のキャンペーンに代わり、2Rを中心に、事業者や若者と行政が一体となってごみ減量に取り組む実践的な事業を実施

令和5年度

- 製菓調理専門学校と連携し、専門学生にアイデアレシピを考案してもらい、選出された上位作品を各種媒体で周知。また、学生がフードドライブに参加する「スクールフードドライブ」を実施
- リユースの取組として、セカンドストリートと連携し、チカホで衣類の買取イベントを開催（小型家電の回収も合わせて実施）



1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践 1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

令和6年度

- アイディアレシピコンテスト
学生から広くアイディアレシピを募集し、人気投票を実施。調理の工夫の仕方を周知
- ごみ減量チャレンジ！ **SAPPORO**
「HTB秋の大感謝祭」にブース出展を行い、ごみ分別を疑似的に体感できるゲームを開催（3日間で約1,000名の参加者）
また、チカホにて、セカストによる古着の売買を実施したほか、市側ブースにて、ごみ減量レシピコンテストの投票、フードドライブ、ごみ分別ゲーム等を開催（5日間で3,500名の来場者）



令和7年度

- ごみ減量の取組の波及効果により、275トン/年の削減効果（推計値含む）が得られている
- フードロスゼロアイディアランチ会
ホテルシェフ考案の食べきり・使い切りレシピによるランチ会を開催。メディアにもレシピを取り上げてもらい、周知を図った
※各種レシピは、食品ロス削減の1歳半健診の際に配布する（年間8,000～9,000部）等、継続的な周知を実施



1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

フードドライブの取組・支援

- フードドライブに取り組む事業者を市のホームページで紹介（R8：68店舗）

- 市でもフードドライブに係る取組を実施

R3：市役所本庁舎でのモデル事業

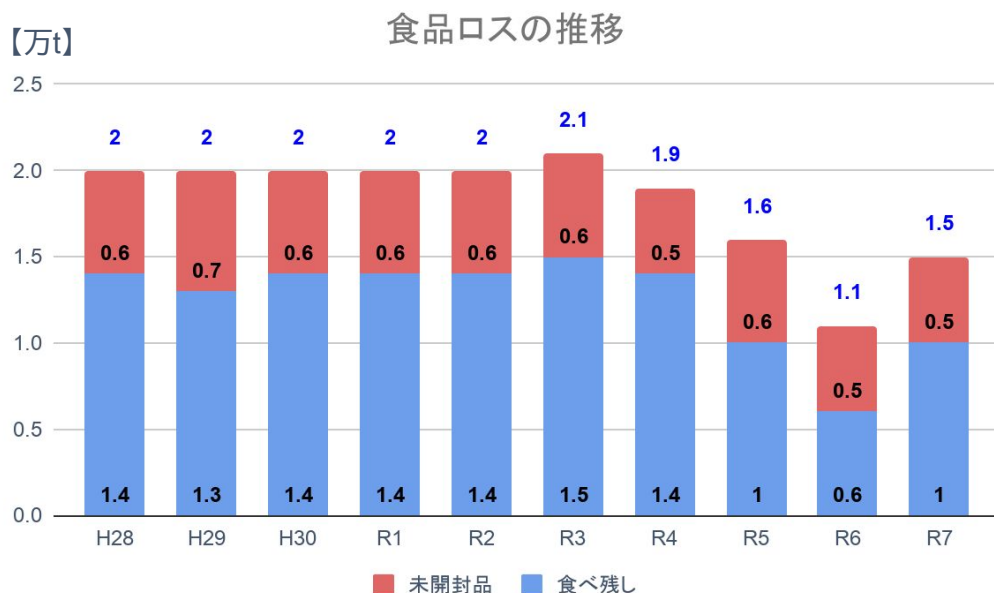
本庁舎ロビーでフードドライブを実施し、結果を踏まえて、実施団体向けのマニュアルを作成・公開

R5：学校における生徒主体のフードドライブ企画

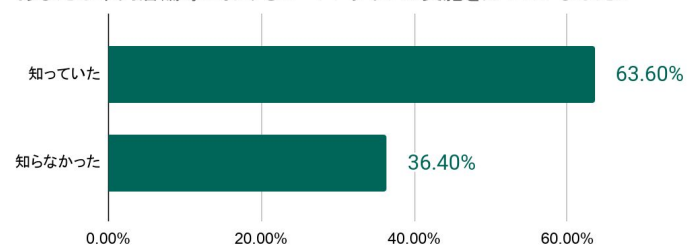
市内の学校に呼びかけ、校内で生徒主体の企画を実施
若年層のごみ減量意識醸成を図った（1校参加、103kg回収）

R6：市内事業者における従業員向けフードドライブ企画

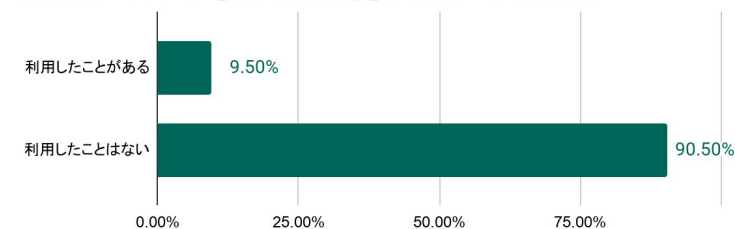
事業者呼びかけ、従業員対象の企画を実施（15社参加）
従業員の意識醸成のほか、事業者の自発的な実施への波及を図った



あなたは市内店舗等におけるフードドライブの実施を知っていましたか



あなたはフードドライブを利用し、食品等を寄付したことがありますか



市民アンケート（R8）
n=849

6割以上がフードドライブを
認知していたが、利用経験が
ない人が約9割

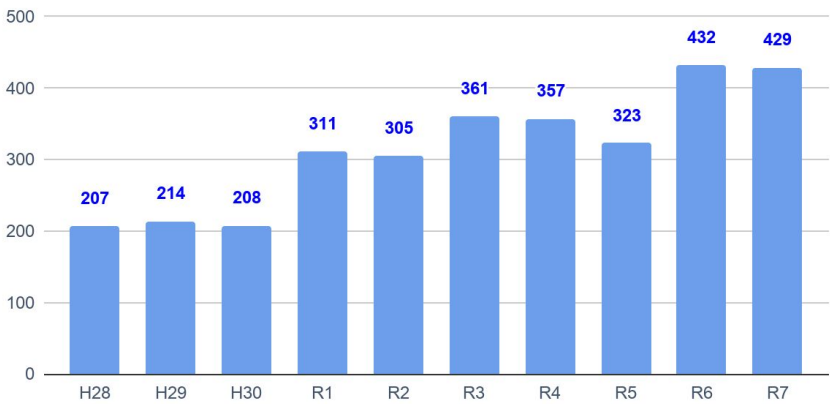
2-3 生ごみ資源化の促進に向けた支援

電動生ごみ処理機購入助成

- 生ごみの堆肥化に取り組む市民への支援として、電動生ごみ処理機を購入する場合、本体価格の2分の1以内（上限あり）で助成

年度	応募人数	助成台数	助成上限額
R5	1,403人	323台	20,000円
R6	1,370人	432台	15,000円
R7	1,045人	429台	10,000円

【台】 電動生ごみ処理機構の助成数



家庭で取り組んだ生ごみ堆肥の回収

- 家庭で生ごみの堆肥化に取り組んでも使い道がない方のために、生ごみ堆肥の拠点回収を実施
- 回収した生ごみ堆肥は、二次処理をして市内の畑で活用
- 指定期間中に地区リサイクルセンターに生ごみ堆肥を持ち込むと、野菜の引換券が貰える取組を実施

年度	堆肥受け入れ量
R5	1,150.3kg
R6	1,579.2kg
R7	(過去最大量) 1,726.7kg



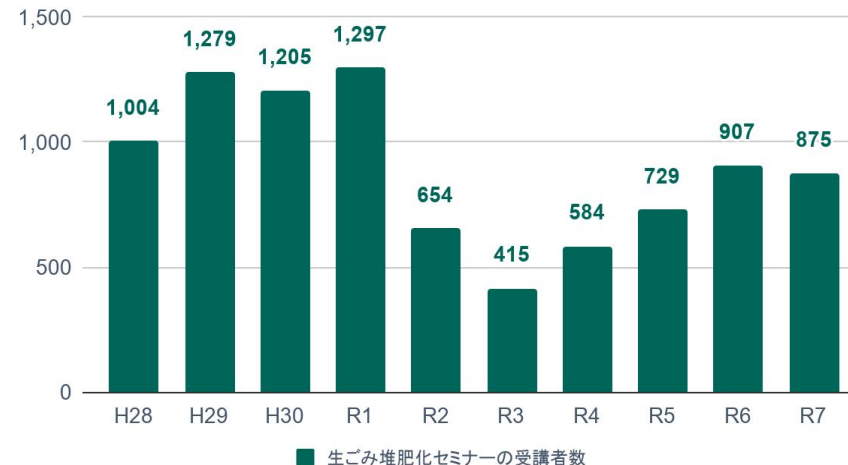
2-3 生ごみ資源化の促進に向けた支援

おうちで堆肥化セミナー

- 参加料無料で生ごみを自家製堆肥に変身させて、おいしい野菜を育てる方法を分かりやすく紹介するセミナーを年間通じて開催



【人】 生ごみ堆肥化セミナーの受講者数



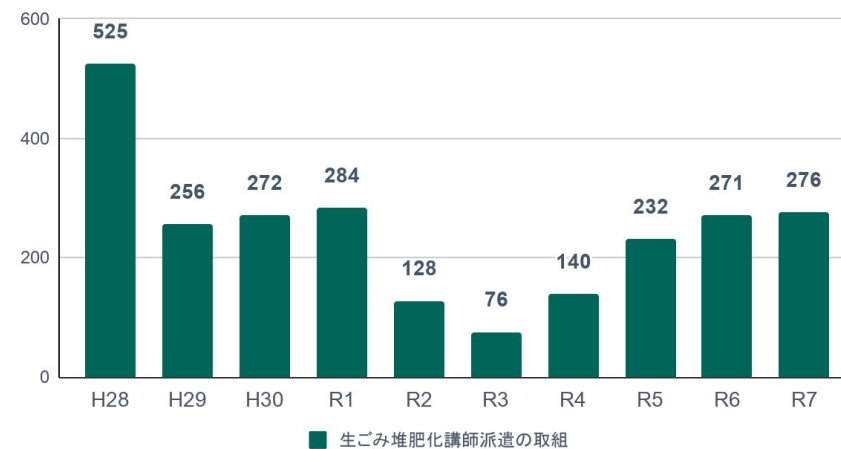
生ごみ堆肥化講師派遣の取組

- 町内会や学校等の団体が開催する10人以上の学習会に講師を無料で派遣し、自家製堆肥の作り方を教える

令和7年度
講師派遣回数15回

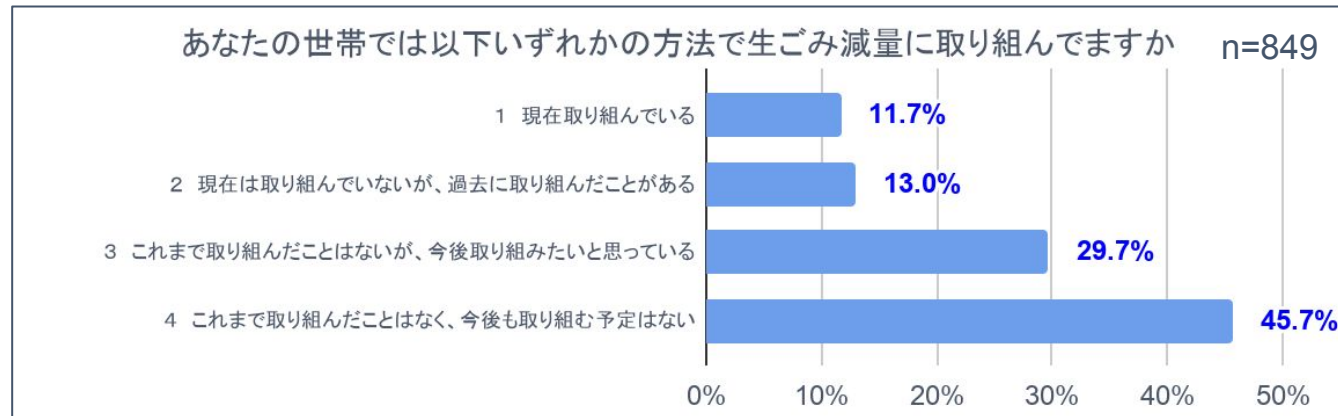


【人】 生ごみ堆肥化講師を派遣した学習会の参加者数

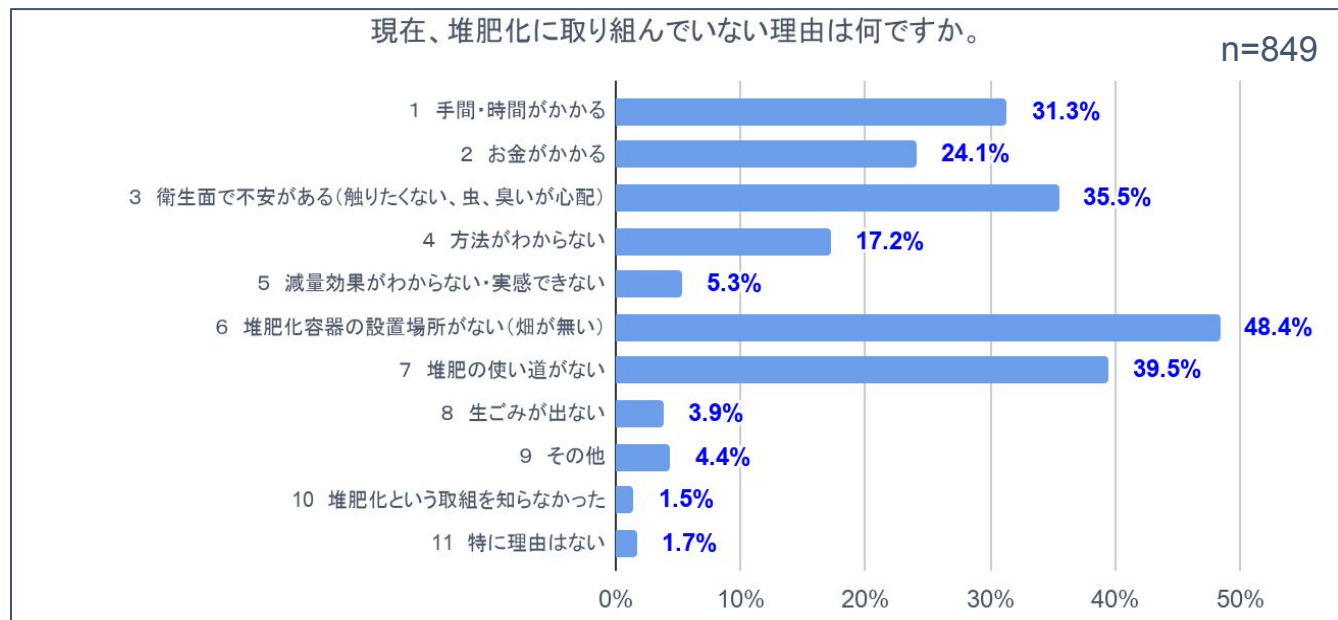


2-3 生ごみ資源化の促進に向けた支援

【生ごみ減量・資源化に関する市民アンケート（R8）】



- 堆肥化に「現在取り組んでいる世帯」は11.7%
- 「今後も取り組む予定はない」という層が半数程度



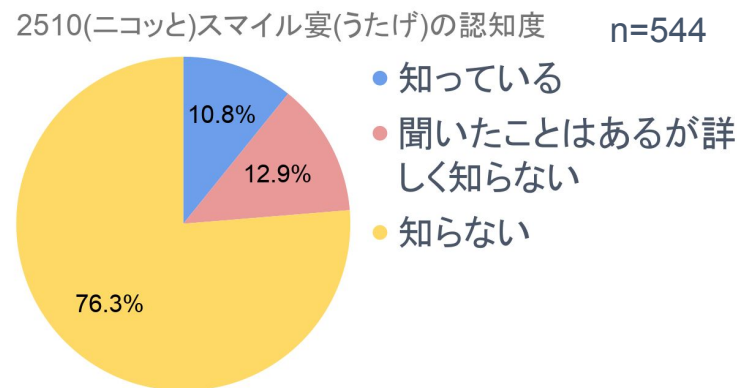
- 堆肥化しない理由として、「堆肥化容器の設置場所がない（48.4%）」「堆肥の使い道がない（39.5%）」「衛生面の不安：虫・臭い（35.5%）」「手間・時間がかかる（31.3%）」が主であった。

3-1 事業者による自主的な取組の促進

飲食店等と連携した食品ロス削減の推進

- 外食時の食品ロスを削減するため、宴会や会食の開始後25分間と終了10分前は自分の席で料理を楽しむ
「2510（ニコッと）スマイル宴（うたげ）」を呼びかけ

認知度（R7食品ロス削減に係るアンケート）



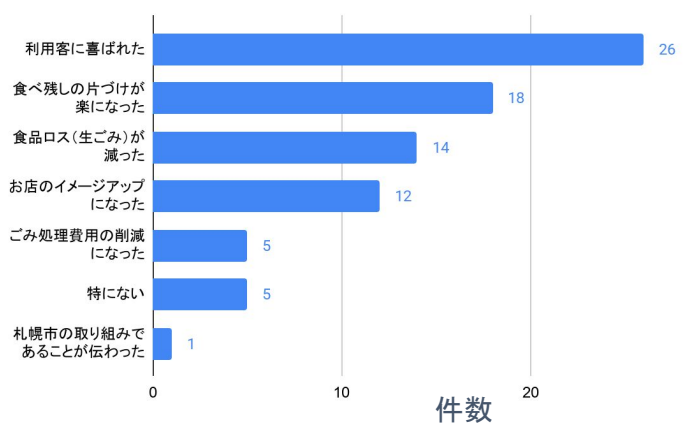
食品ロス削減啓発活動

- 食べきれなかった料理の持ち帰りとして持ち帰り容器(ドギーバッグ)を作成。市内飲食店へ配布し、食品ロス削減の啓発活動について協力を依頼
- 市内大型ビジョンでPR動画（2510スマイル宴など）を放映
- 札幌商工会議所のメールマガジンを活用し、食品ロス削減について掲載している本市ホームページを紹介し、対策を呼びかけ

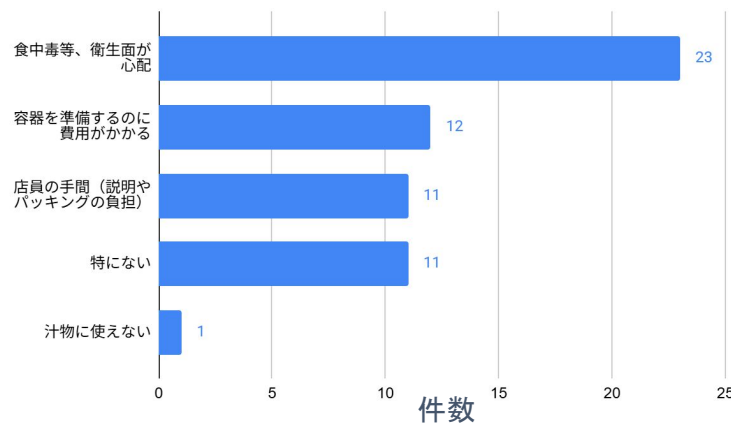
R7持ち帰り容器の活用に係る飲食店へのアンケート調査

持ち帰り容器を活用した食品ロス削減の啓発活動に参加した飲食店42店舗の回答

持ち帰りサービスをすることで、よかったこと(複数回答)



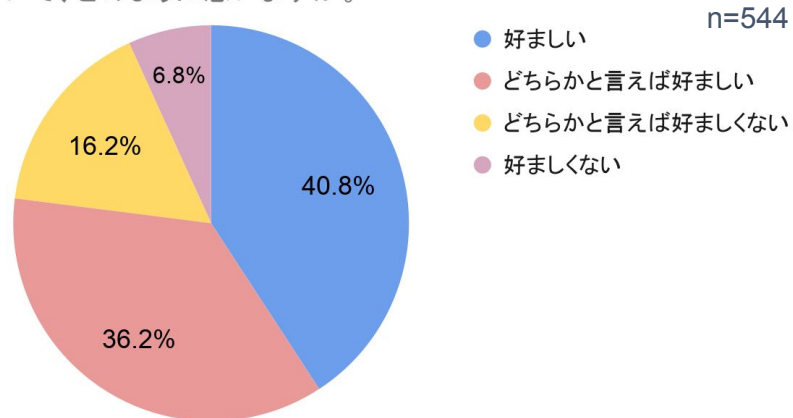
持ち帰りサービスをすることで、困ること、気になること(複数回答)



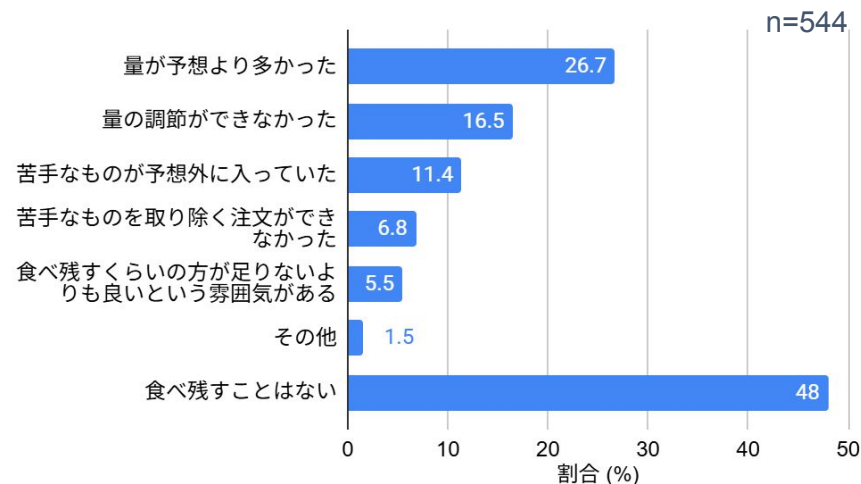
3-1 事業者による自主的な取組の促進

【食品ロス削減についての市民アンケート(R7)】

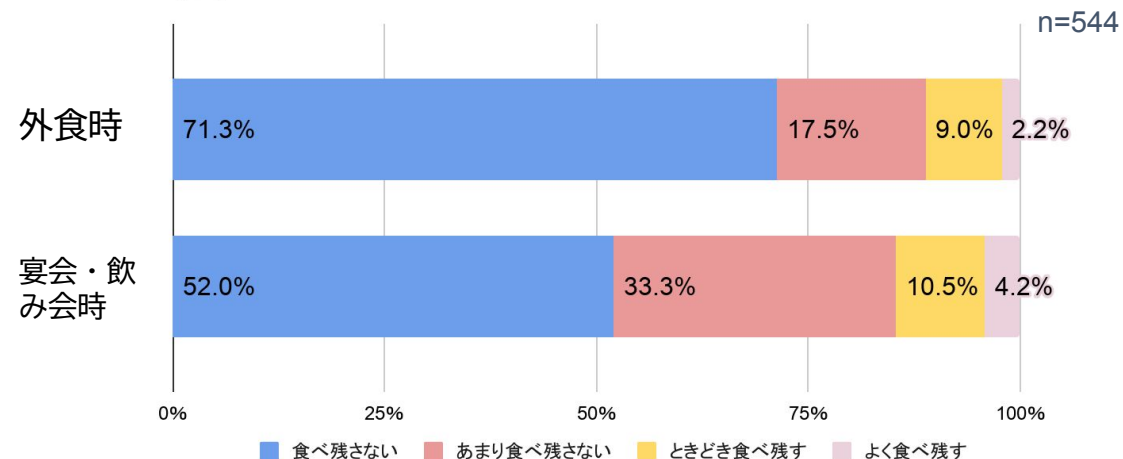
あなた自身が、外食や宴会時に食べ残した料理を持ち帰ることに
ついて、どのように思いますか。



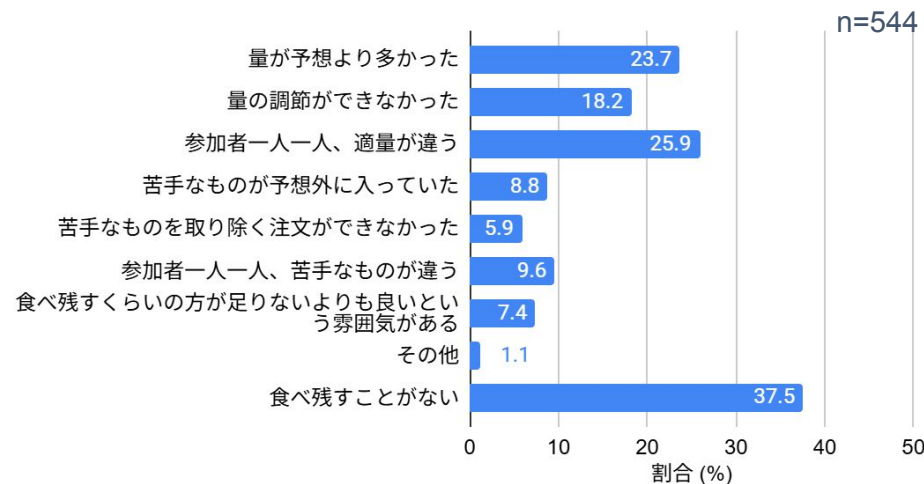
あなたの外食時（宴会・飲み会以外）に食べ残しが出てしまった場合、そ
の主な理由として当てはまるものを全てお選びください。※複数回答



次の場面ごとに、あなた自身の「食べ残し」について、当てはまるものを選んでくだ
さい。



宴会・飲み会時に食べ残しが出てしまうことがあれば、それはなぜだと思います
か。※複数回答

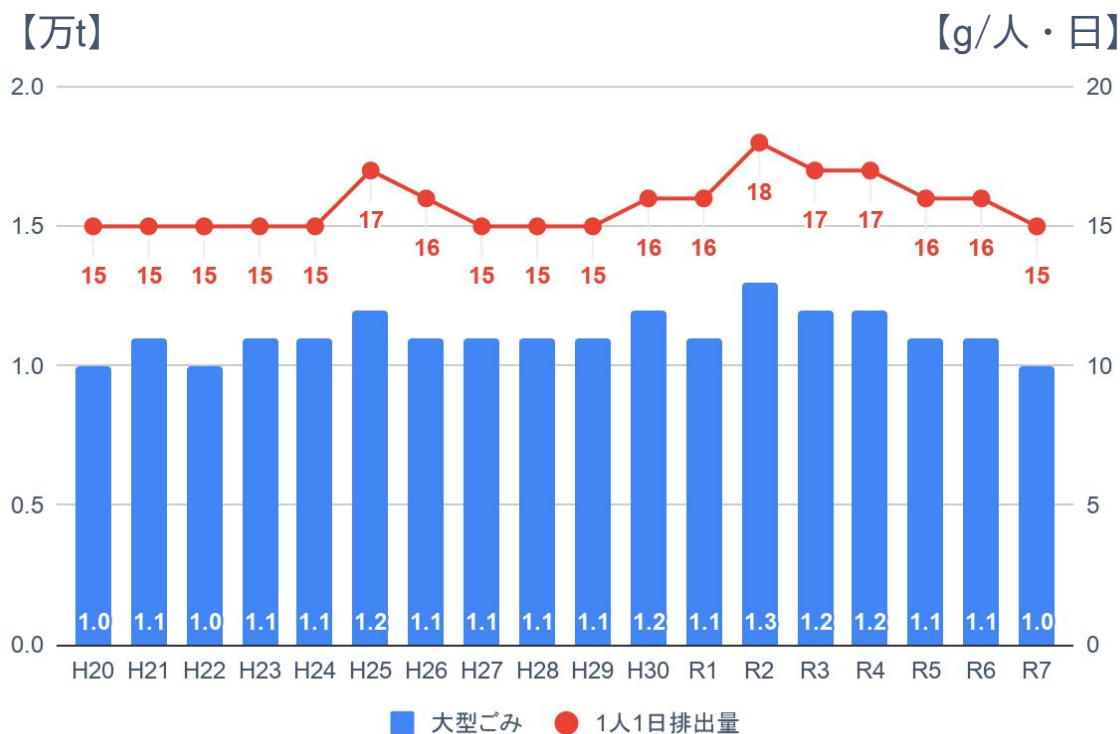


その他（第3回までの審議会を踏まえて）

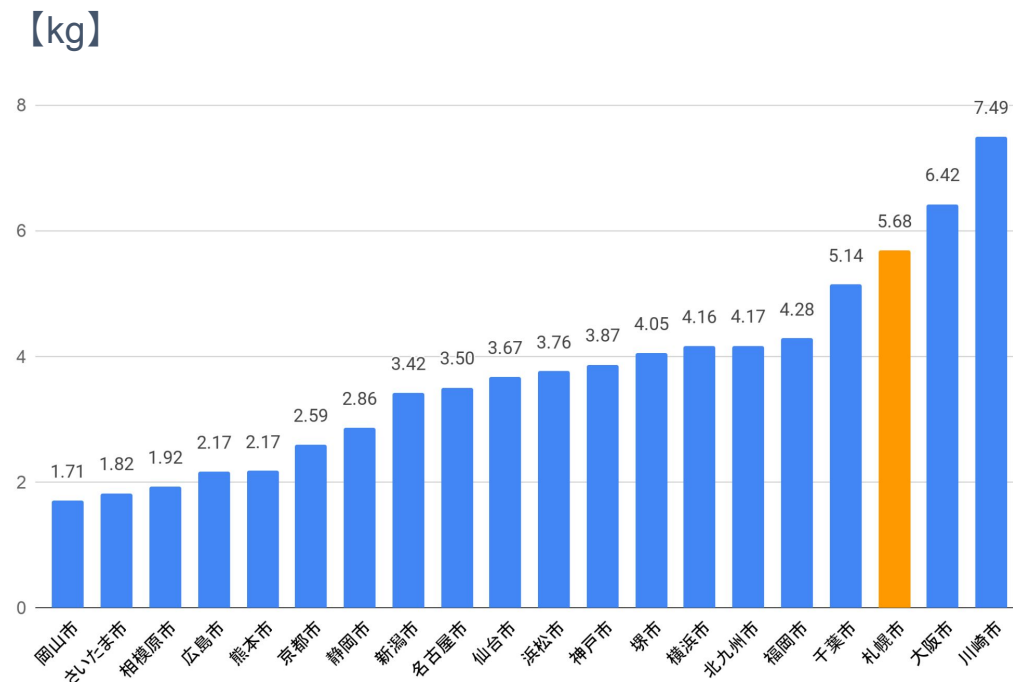
大型ごみの減量

- 燃やせるごみ、燃やせないごみなどは減量が進んでいるが、大型ごみは減量が進んでいない（大型ごみの排出量は、H11以降横ばい）
- 家庭ごみが全体的に減少傾向（H28比▲8.5%）にある中、大型ごみはH28比▲1.6%と横ばい傾向
- 平成28年比で大型ごみの申込個数は8.8%、訪問件数は32.1%増加

大型ごみ排出量の推移



大型ごみ排出量の政令市比較（令和6年度 市民1人当たりの年間排出量）



令和6年度一般廃棄物実態調査より

1-3 リユース機会の提供

リサイクルプラザ・リユースプラザ

- リサイクルプラザ
リユース家具等の展示提供、各種教室講座やイベントの開催等により、ごみ減量についての情報提供を実施
令和7年度：来場者数90,084人、リユース家具等提供個数783個、教室・講座・イベント参加者数23,136人
- リユースプラザ
リユース家具等の展示提供、ごみ減量講座やイベントの開催等により、ごみ減量についての情報提供を実施
令和7年度：来場者数53,431人、リユース家具等提供個数1,903個、講座受講者713人、イベント参加者数2,234人

リユース家具・自転車の展示提供

(リサイクルプラザ・リユースプラザ)

- 大型ごみ収集センター等へリユースとして提供された家具・自転車を、リサイクルプラザ(宮の沢)とリユースプラザ(厚別区)で展示・提供
- 毎月公開抽選を行い当選者に販売を行うが、申し込みがなかったものについては即売品として販売している

リユースコーナー

(リサイクルプラザ)

- 家庭で不要になったもののうち、まだ十分に使える日用品・小物を、市民同士で譲り合うコーナーがあり、無料で持ち込み・持ち帰りが可能



エクスチェンジ (洋服の交換会)

(リサイクルプラザ)

- 綺麗だが着なくなってしまった服を他の人に着てもらうための交換会持ち寄った服と引き換えに発行される引換券で他の人が出した服と交換が可能



1-3 リユース機会の提供

ゆずります・ゆずってくだ
さい情報コーナー

(リサイクルプラザ)

- 不用品の交換等を促進するため、情報の掲示場所(掲示板)を提供



おもちゃ病院

(リサイクルプラザ)

- 物を大切にする気持ち育んでもらうために、修理費無料で、おもちゃドクターが壊れたおもちゃを修理



リユース食器の貸出

(リサイクルプラザ)

- お祭りや集会で排出される使い捨て食器などの「イベントごみ」の減量を目的に、リユース食器の使用を提案
- 基本料金は、期間や食器の個数にかかわらず一律1,000円



1-3 リユース機会の提供

民間企業等との連携

- 株式会社ジモティー、株式会社セカンドストリート、株式会社マーケットエンタープライズおいくら等と連携
- 各社よりサービスの利用実績等が提供を受け、リユースの動向や減量効果の把握に活用（連携による減量効果は年間数十トと推定）

① インターネットを通じたマッチングの推進

- 公式HPでの利用案内掲載を通じて市民へのリユース利用の定着を促進（R7年度：市のHPを通じた「おいくら」へのアクセス数20,000件）
- ごみとして出す前にリユースに誘導するため、市ホームページ等で広報を実施



② ジモティースポットの開設

- 実際の店舗として譲渡や買取を行う「ジモティースポット」を令和7年度に2店舗開設
- 一般のリユースショップでは買取されないようなものでも、まだ使えるものであれば無料で引取、店舗で販売



③ セカンドストリートとの連携

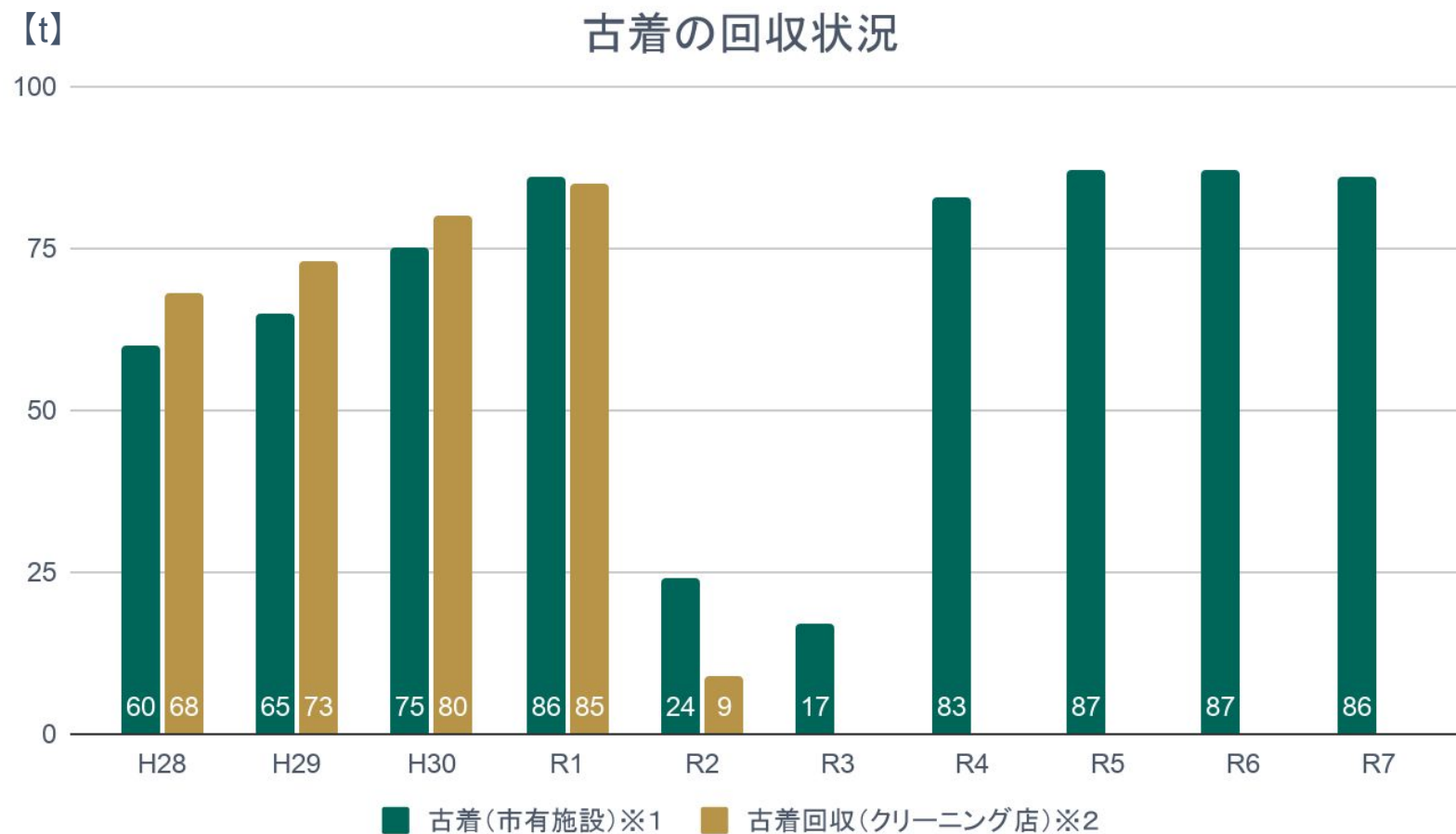
- 「環境広場さっぽろ」への共同出展や・小学校向け出前授業の共同実施等の啓発活動を推進（2校100名以上の生徒が参加）



1-3 リユース機会の提供

古着の無料回収

- サイズが合わなくなったり、デザインに飽きてしまったりなど、家庭で不用になった衣類を、各清掃事務所（中央清掃事務所除く）、処理場管理事務所、各地区リサイクルセンター等に無料で持ち込みできる取組
- 民間事業者による回収拠点の増加を受け、市のホームページで周知を実施（40店舗以上）
- 回収した古着は、業者に売却して選別し、主に海外で衣類として再利用



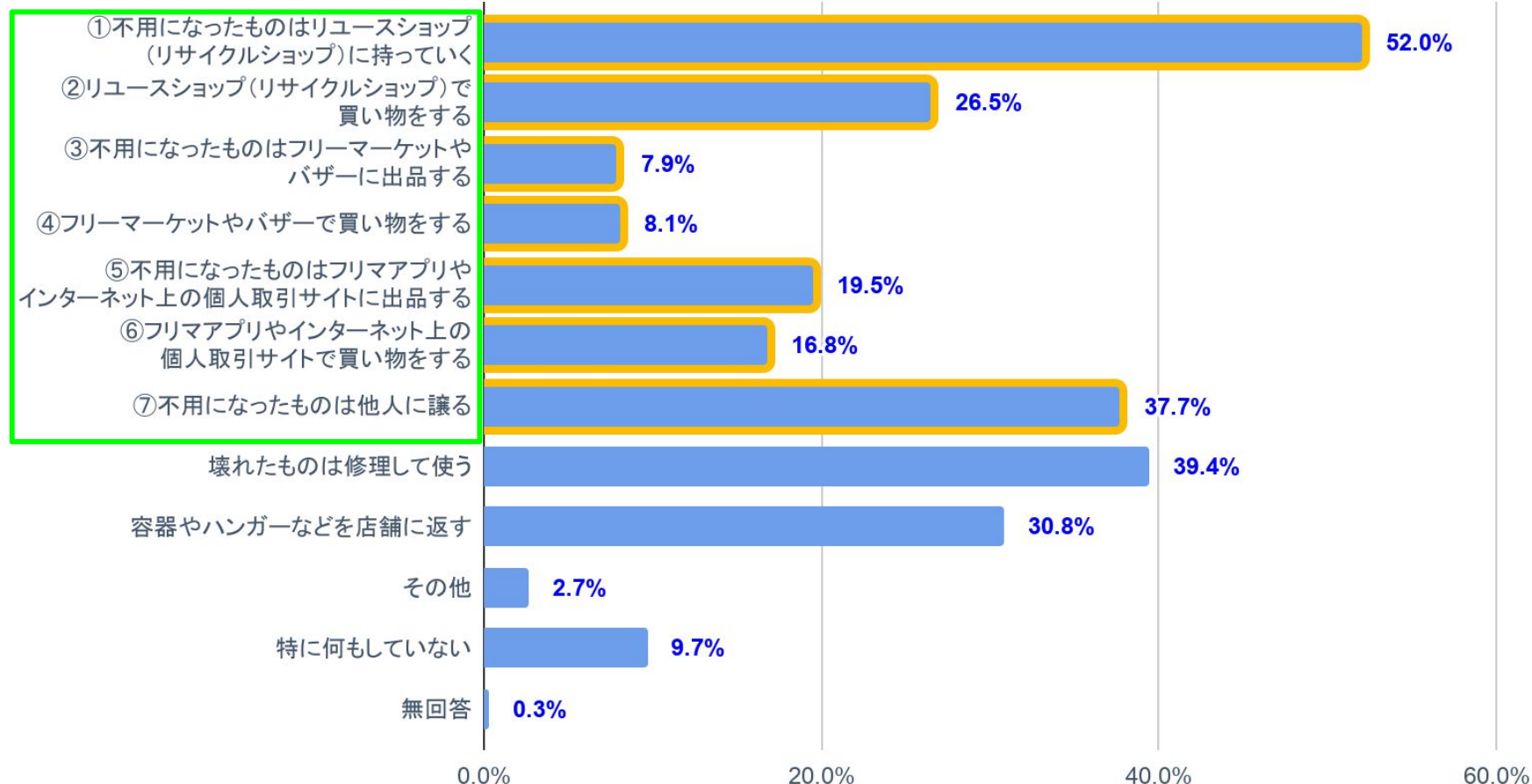
※1 新型コロナウイルスの影響により、令和2年5月～令和3年10月まで回収を中止

※2 平成27年6月から令和2年5月まで回収実施

1-3 リユース機会の提供

【リユースに関する市民意識調査（R7）】

Q.製品などの再使用（リユース）のために、あなたが行っていることは何ですか n=2,519

上記項目①～⑦いずれかを実施している人の割合 **81.3%**

2-2 資源回収の促進に向けた取組

地区リサイクルセンターでの資源回収

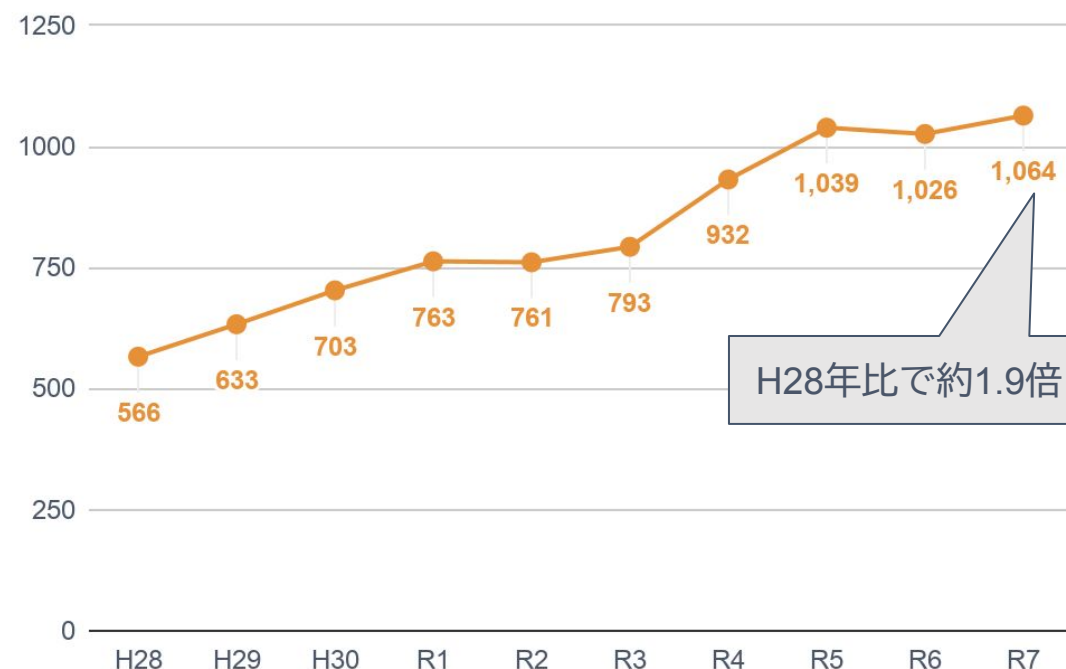
- 地区リサイクルセンター（市内4か所）は、新聞・雑誌・ダンボールや古着、小型家電、小物金属類など、家庭から出たさまざまな資源物等を無料で持ち込める回収拠点であり、土日も開設しているため、休みの日に「まとめ出し」ができる回収拠点



（回収品目一覧）

- 新聞、雑誌、ダンボール、紙パック
- 雑がみ
- びん・缶・ペットボトル
- 一升びん・ビールびん
- 容器包装プラスチック
- 古着、古布、毛布
- 小物金属類
- 小型家電
- 蛍光管
- 水銀体温計・水源血圧計・水銀温度計
- 筒形乾電池、小型充電式電池
- 廃食油
- 生ごみ堆肥
- 枝・葉・草
- 使用済みインクカートリッジ
- スプレー缶・カセットボンベ
- ライター

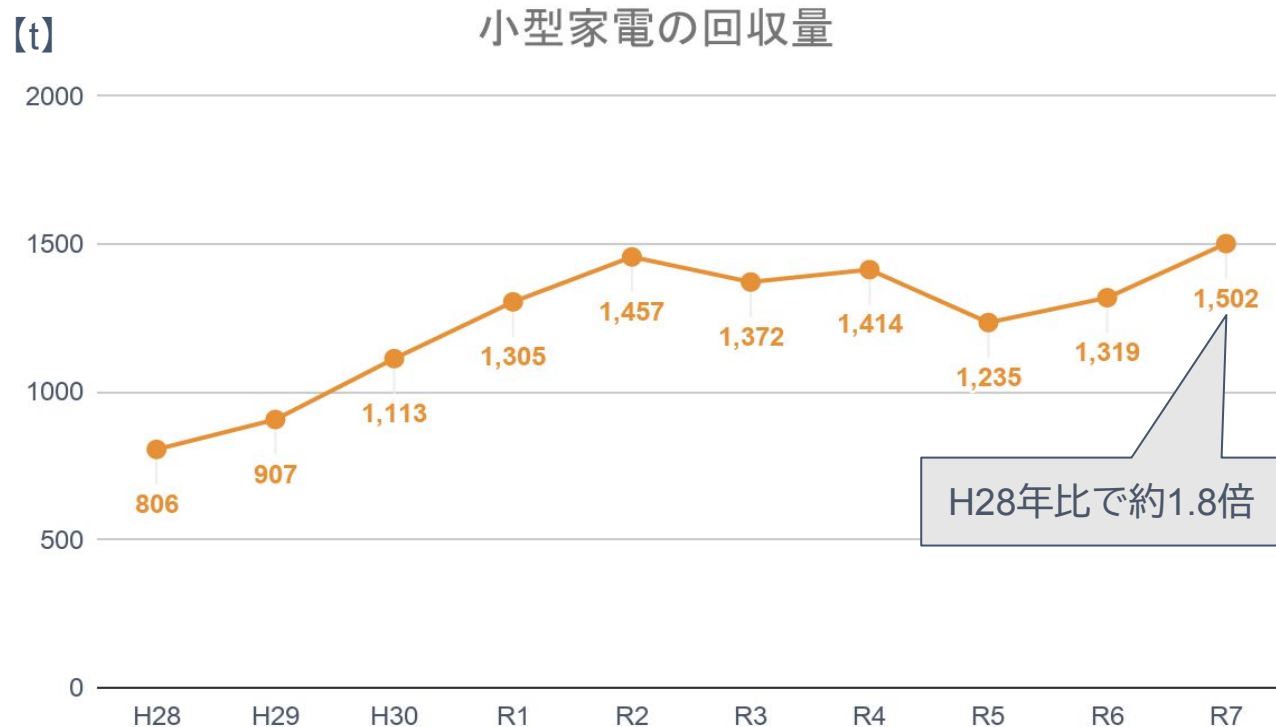
地区リサイクルセンターの回収量



2-2 資源回収の促進に向けた取組

小型家電の拠点回収

- 小型家電リサイクル法に基づき、家庭で不要になった家電製品と付属品(コード類、リモコン、アダプタなど)を無料回収し、家電製品に含まれている金、銀、レアメタル等をリサイクルしている
- 回収は、地区リサイクルセンターやリサイクルプラザ、市役所本庁舎での対面での回収、市内6箇所の区役所において小型家電回収ボックスでの回収を実施
- また、株式会社マテックが運営するじゅんかんコンビニ24、リサイクルステーションでの無人資源物回収施設やリネットジャパンリサイクルの宅配便を利用した回収、家電量販店10店舗でも回収を実施



(収集品目)

- 家庭で不要になった対象外品目を除く家電製品
- 30センチ四方の投入口を通る大きさ(例外あり)
- 回収しない品目に該当しないもの



(対象外品目)

- 家電4品目(テレビ、冷蔵庫・冷凍庫、洗濯機・衣類乾燥機、エアコン)
- モバイルバッテリー
- 加熱式たばこ・電子たばこ等

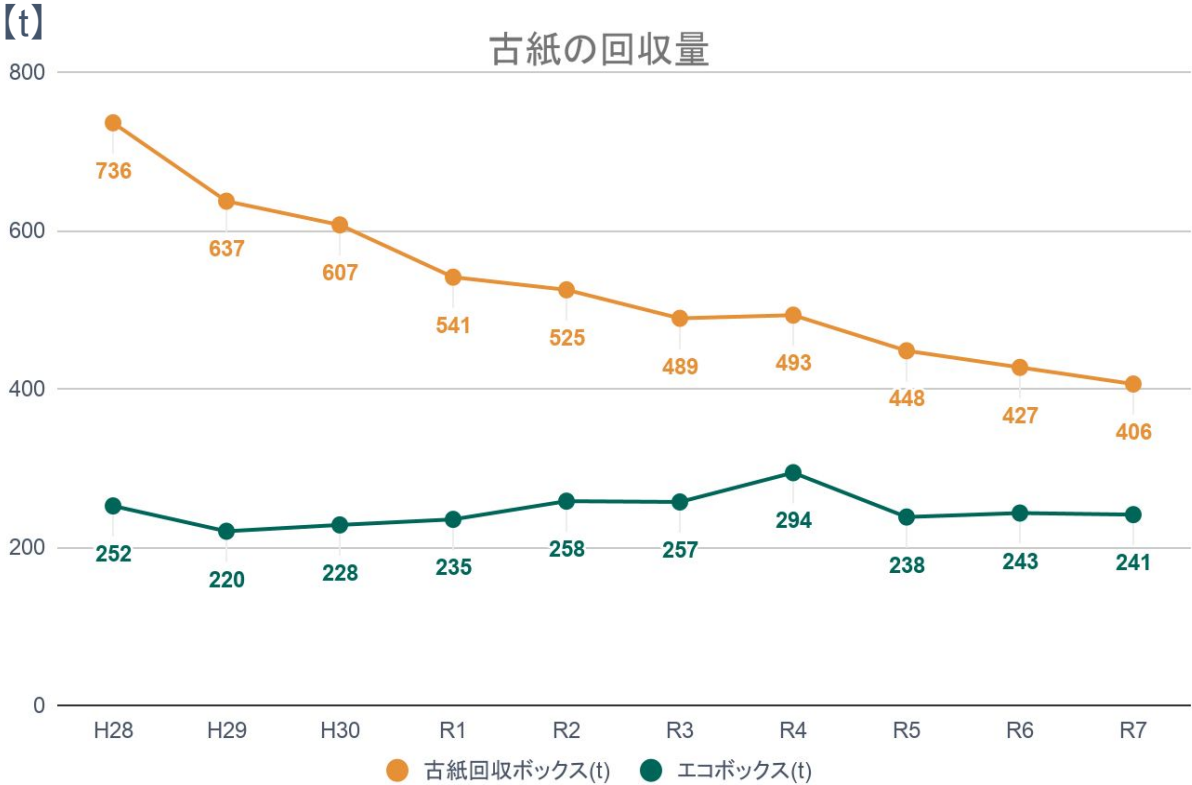
2-2 資源回収の促進に向けた取組

古紙・廃食油・蛍光管の拠点回収

古紙

- 各区役所（区民センター）、地区センター等に市民持込型の古紙回収ボックスを設置、地域住民管理による回収拠点であるエコボックスの設置
- 市内の古紙回収拠点は約550箇所

区分	設置場所
古紙回収ボックス	区役所・区民センターや一部の地区センターなど(19カ所)
エコボックス	地区会館やマンション敷地内などの住民管理型(39カ所)
古紙回収協力店	民間古紙関係事業者
ダンボール回収協力店	一部のスーパー
地区リサイクルセンター	4カ所
セイコーマート	営業時間内レジカウンター(全店舗)



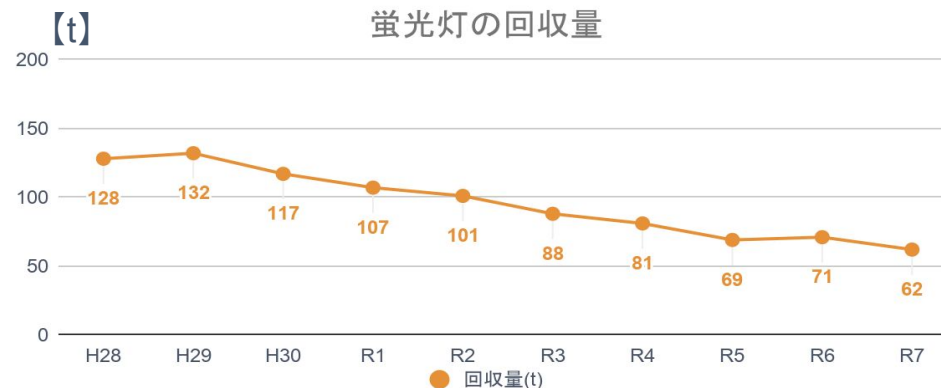
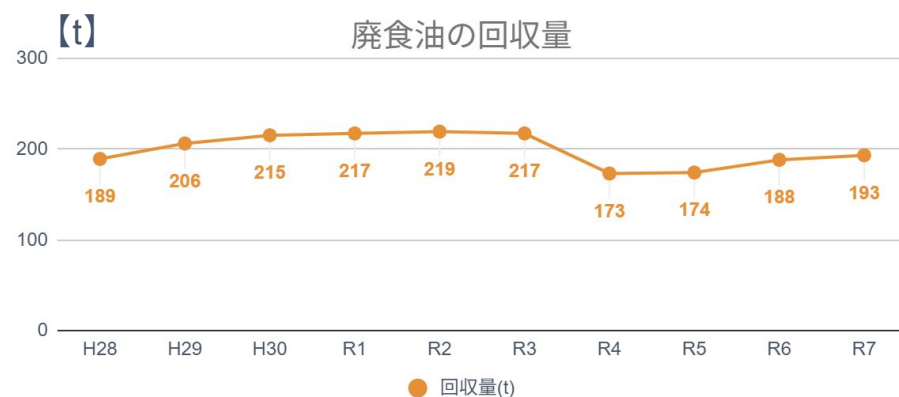
2-2 資源回収の促進に向けた取組

廃食油

- 市内の回収拠点はスーパー、ホームセンター等の388か所

蛍光管

- 市内の回収拠点は電気店、スーパー、家電量販店などの回収協力店195か所



資源回収に関する積極的な情報発信

- 回収拠点の場所や回収品目について、ホームページ等で広報
- 公共施設、スーパー、ごみ減量イベント等でポスターの掲示やチラシを配布
- 事業者が自主的に実施する資源回収に関する情報をホームページに掲載

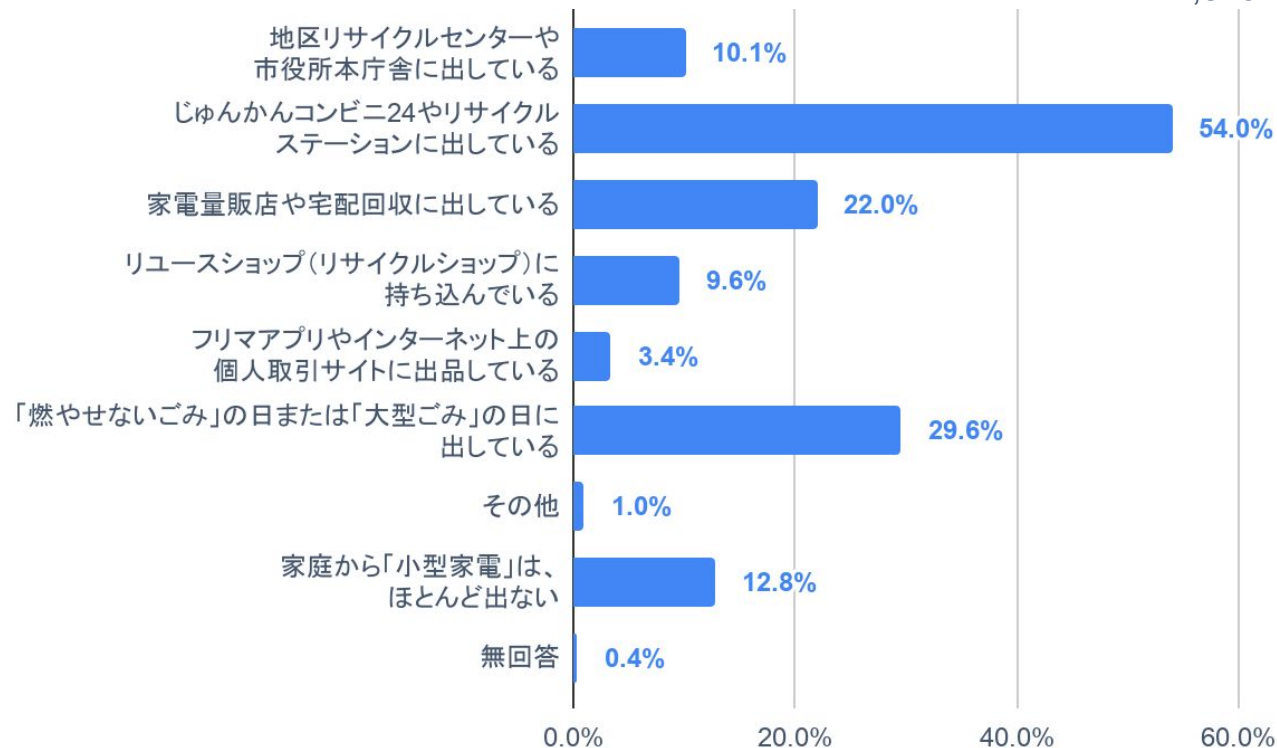


2-2 資源回収の促進に向けた取組

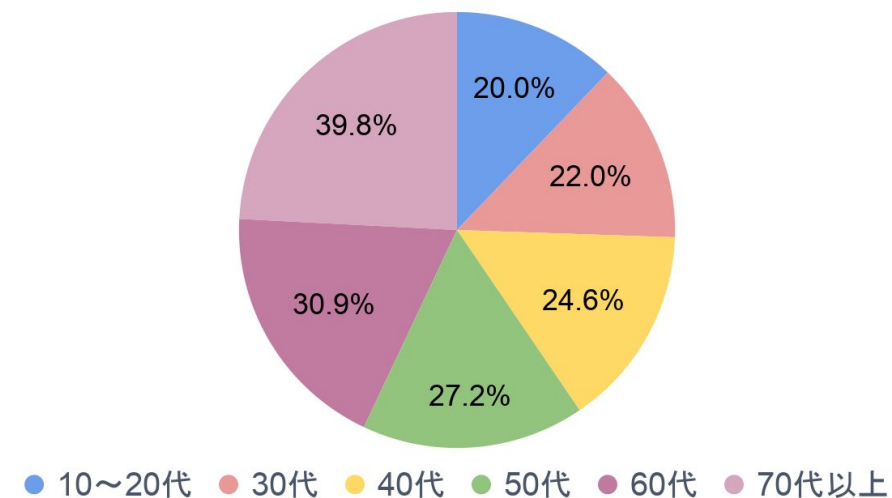
【小型家電に関する市民意識調査(R7)】

Q.あなたは小型家電を処分するとき、どのようにしていますか

n=2,519



小型家電を燃やせないごみ・大型ごみに出す年代の割合



- 小型家電の処分は「じゅんかんコンビニ24やリサイクルステーションに出している」と回答した人が約5割
- 次いで「燃やせないごみの日または大型ごみの日に出している」が3割弱
- 小型家電を燃やせないごみ・大型ごみに出すのは高齢者層の割合が高い

4-4 ごみについて関心を高める環境教育の充実

エコライフレポート

- 小中学生を中心に「エコライフレポート」を配布し、夏休みや冬休み中にエコ行動を実践、レポートを提出してもらうことで、児童・生徒一人一人の環境に関する関心を高める啓発活動を実施
【R7に取り組んだ児童・生徒の割合：夏休み86.9%、冬休み85.5%】

環境副教材の配布

- ごみ・水・雪など環境に関する各部門を統合した小学生向け総合的環境副教材を、市立小学校の新1、3、5年生の全児童に配付。また、学校現場でより活用しやすいものとするため、令和8年度からデジタルブックとして公開予定

小学生向け出前講座の実施

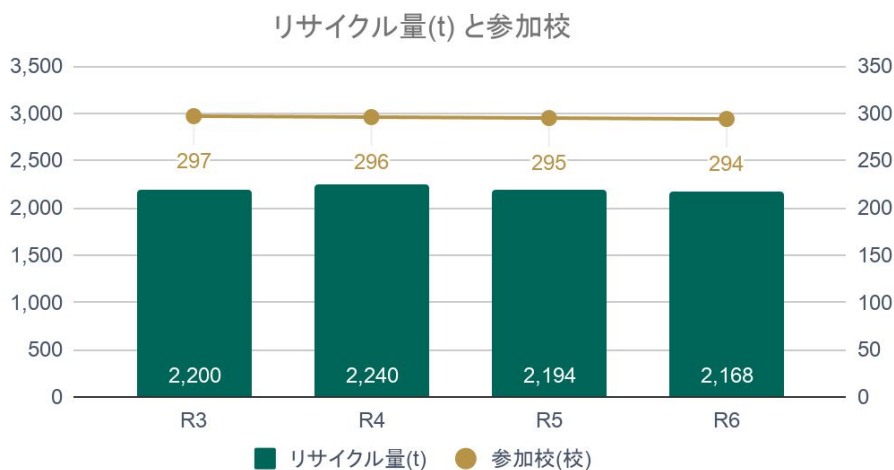
- 市内の小中学生を対象に「小学生向け出前講座：ごみの分け方・出し方」を実施（令和7年度は146校、10,563人の児童を対象）
【GO！ミエール号】
- 子どもたちを始め、多くの市民にごみの減量等に関心を持つきっかけとするために、廃車予定のごみ収集車を荷箱内部の様子や機械の仕組みが見えるよう改造し、小学生向け出前講座、市・地域のイベントに出展
- 札幌市内のイベントでは、環境広場さっぽろ、ミニさっぽろ、リユースマルシェ等に出展ブースを設けて普及啓発活動を実施
- 令和7年度には年間で165回の出展を実施



4-4 ごみについて関心を高める環境教育の充実

フードリサイクルを通じた環境教育

- 学校給食を作る過程で発生する調理くずや残食などの生ごみを堆肥化し、その堆肥を利用して作物を栽培し、その作物を学校給食の食材に用いて子供たちが食する食物の循環に取り組む



学校給食由来の食品廃棄物は、回収・リサイクル体制が定着。
また、平成27年度学校給食の実施に伴い発生する廃棄物等の3R促進モデル事業の製作物として「さっぽろ学校給食フードリサイクルリーフレット」を作成し、継続的な環境教育に努めている。

体験型コンテンツを活用した「環境広場さっぽろ2026」へのブース出展

- 関係部局や市民団体（さっぽろスリムネット等）、事業者等と協働し環境広場さっぽろ2026へ出展（ブース参加者数：1,378人）
- パネル展示と連動した「ごみ分別クイズ」、体験型分別ゲーム、廃材を活用した工作教室などを実施し、参加型コンテンツを通じて正しい分別知識の醸成につなげた



1-1 ごみ発生・排出抑制のための行動の実践

自治体	千葉市
内容	レジ袋の代わりに千葉市指定ごみ袋を購入（実証実験）
説明	- 千葉市とイオン株式会社との包括連携協定に基づき、プラスチックごみ削減に向けて、指定可燃ごみ袋全種類をレジ袋として使用するための実証実験を市内イオン全店舗、ミニストップで実施 - 商品を購入する際にレジ袋の購入も希望する顧客に対し、レジ袋と本市の指定可燃ごみ袋のどちらか一方を選択する実証実験 - 実証実験は、指定可燃ごみ袋を買い物袋として使ってもらうことで、ごみとして捨てられてしまうレジ袋の総量を抑え、プラスチックごみ削減に繋げることを目的 （実証実験期間 イオン：令和2年6月1日～11月30日 ミニストップ：令和2年3月2日～11月30日） - 指定可燃ごみ袋は、1枚単位のばら売りとし、45Lで36円、30Lで24円、20Lで16円、10Lで8円、5Lで4円

自治体	大阪市
内容	大阪ごみ減量推進会議
説明	- 大阪ごみ減量推進会議は、資源化率の低さやごみ排出量の多さを改善すべく、「ごみゼロ大阪」をめざす市民・事業者・行政のネットワーク組織として、持続可能な循環型社会の実現を願うすべての人が集う、連携・交流・提案・実践の場を設置 - NPO等の団体が、紙ごみのリサイクル、生ごみの資源化、リユース容器の普及など多様なテーマでごみ減量・3R推進に取り組み、近年は団体間でネットワークを形成し、行政や事業者との意見交換を実施 推進事業 - 行政及び事業者へのごみ減量・3R推進のための施策と提案と協働による施策の実施 - 市民・事業者・行政との意見交換・情報交換 - 廃棄物減量等推進員やごみ減量を目的とするNPO・市民団体などの活動支援 参加団体 行政：大阪市 市民団体：NPO法人×4団体 その他×3団体 事業者：11社 個人：1名

1-2 生ごみ減量の促進に向けた取組

自治体	神戸市
内容	フードドライブ拠点マップで食品寄附促進
説明	● 家庭で余っている食品を無駄にせず社会貢献につなげる方法としてフードドライブをホームページで紹介 ● 回収方法や対象品目などを伝えるほか、気軽に余剰食品を寄附できるようフードドライブ拠点のエリア毎のリストやスマホ・PCで検索しやすいマップ機能も提供 ● 実施店舗では専用のボックスやサービスカウンター等で家庭からお持ちいただいた食品を回収している。回収された食品はフードバンク団体などを通じて食支援を必要としている人に届ける ● 回収対象食品は、未開封のもの、賞味期限まで1ヶ月以上あるもの、常温保存のもの（冷蔵・冷凍食品以外）、製造者または販売者が表示されているもの、成分またはアレルギー表示のあるもの、日本語表記があるもの

自治体	横浜市
内容	SDGsロッカーの取組への補助
説明	● 横浜市とヨコハマSDGsデザインセンターは、SDGs達成や脱炭素社会の実現に向け、事業者の皆様の食品ロスとCO2の排出削減、市民の皆様の脱炭素やSDGsに向けた意識醸成・行動変容につなげていく取組 ● 消費期限内でありながら廃棄されてしまう専門店のパンや規格外野菜など、いわゆる「もったいない」とされる商品をロッカー型自動販売機で販売 ● また販売するロッカー型自動販売機の設置場所提供者とロッカー設置者及び食品販売者のマッチング ● 令和7年1月から取組を開始し、横浜市内8か所（令和7年7月末時点）に設置

2-3 生ごみ資源化の促進に向けた支援

自治体	千葉市
内容	乾燥野菜くずの資源化
説明	● 平成8年より家庭系可燃ごみの3割以上を占める生ごみの減量化を進めるため「生ごみ減量処理機」の購入補助金制度を実施 ● 残渣物となる「乾燥野菜くず」の有効活用が課題であり、令和7年1月より民間企業3社と連携し、事業系食品くずと併せて乾燥野菜くずを処理 ● 回収方法は生ごみ減量処理機で乾燥処理した乾燥野菜くずを透明なビニール袋に1kg単位に詰めた状態で古紙リサイクルステーション内の乾燥野菜くず専用ボックスに投入 ● 回収時には1kg毎に10リサイクルポイントが付与され、500リサイクルポイントが貯まると50nanacoポイントと交換可能 ● 回収対象外のものは貝殻、調味料、パン生地等、また事業所から排出されたもの ● なお、回収ボックスも不法投棄対策として、電子申請での完全事前登録体制でボックスは施錠され、登録メールアドレスに開錠番号が送られ、その番号で開錠するシステム ● 回収された乾燥野菜くずは、民間のリサイクル施設で堆肥化し、資源として活用

3-1 事業者による自主的な取組の促進

自治体	広島市
内容	食品寄附マッチングシステム（ひろしま食マッチ）
説明	- 令和8年4月より未利用食品の有効活用を促進するとともに、貧困対策等の福祉的な支援を行うことを目的とした、広島県内初の自治体が運用する「広島市食品寄附マッチングシステム（ひろしま食マッチ）」を開設 - この「ひろしま食マッチ」は、食品を寄附したい事業者等とフードバンク団体や福祉施設等、食品を必要とする団体を適切にマッチングするシステムであり、まだおいしく食べられるにもかかわらず、様々な理由で使われなくなった食品がフードバンク団体などへ、すばやく行き渡るよう支援することで「もったいない」をなくし、食品ロスの削減を目標 食品寄附者：一次生産、食品加工・製造、小売等の流通、ケータリング、ホスピタリティ部門等、食品サプライチェーンの各段階で余剰食品を提供する事業者、災害用備蓄食品等を提供する事業者、余剰農作物等を提供する農林水産業者等 食品受取者：広島市内において一定の活動実績があり、その活動実績がホームページ等で確認できる者（広島市内で一定の活動実績があるフードバンク、福祉施設、こども食堂など）

3-1 事業者による自主的な取組の促進

自治体	沖縄県
内容	食べきり・食べ残しお持ち帰り促進キャンペーン
説明	● 消費者の外出時の食べきりを促進するとともに、食べ残しを持ち帰りやすい環境を醸成することで、外食産業における食品ロスの主な発生要因の一つである食べ残しの削減を図ることを目的に実証実験を行った ● キャンペーン期間は令和8年2月1日から3月25日、実施店舗は沖縄県飲食業生活衛生同業組合8支部73店舗 ● 持ち帰り易くするための「持ち帰り意思表示カード」や「専用容器」も準備 【取組の流れ】 (1) 県において、「お持ち帰り意思表示カード」及び持ち帰り用容器（ドギーバッグ）を製作・準備 (2) 実証実験に協力頂ける店舗に意思表示カード及び持ち帰り用容器（ドギーバッグ）を配布 (3) 店内の卓上等に「お持ち帰り意思表示カード」を設置 (4) 意思表示カードを提示した顧客や持ち帰りを希望する顧客に持ち帰り用容器を提供 (5) 持ち帰り用容器を提供する際に注意事項が記載されたチラシを配布する (6) チラシにアンケート用のQRコードを掲載し、利用客がアンケートに回答する

1-3 リユース機会の提供

自治体	京都市
内容	イベント時の分別リユースごみ箱の貸出
説明	● お祭りや学園祭などのイベントは、短期間で大量のごみが発生し、エネルギーや資源を大量に消費するなど、環境に大きな負荷を与えていることから、ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」が平成27年10月1日に施行 ● 「しまつのこころ条例」では、イベント主催者に参加者がごみの分別排出するために必要な環境を整備することが義務化されているため、イベントでのごみの分別を推進し、イベント参加者の環境意識を醸成するため、イベント時の「分別リユースごみ箱」の貸出 ● 貸出は京都市内に活動拠点のある各種団体、民間非営利団体（NPO）、自治会・町内会、学校、企業等の団体が京都市内で開催するイベント ● 貸出物は、分別リユースごみ箱（120L・90L・45L）、分別標示板（燃やすごみ・かん・びん・ペットボトル・リユース食器・プラスチック・3種混合「かん・びん・ペットボトル」） ● 貸出費用は無料だが、運搬、ごみ袋費用、ごみ処理費用はイベント開催者の負担

1-3 リユース機会の提供

自治体	仙台市
内容	R-LOOP（すてない循環をつなごう）
説明	● 民間運営会社（ブックオフコーポレーション及びBPLab）と連携し、衣類の回収拠点「R-LOOP」を設置 ● 区役所・総合支所では、青葉区、宮城野区、若林区、太白区、泉区の各区役所及び宮城・秋保総合支所に設置しているほか、商業施設等では、仙台PARCO（本館9階・PARCO2 5階）、みやぎ生協、東急リバブル各センター、BOOKOFF仙台六丁の目店等に設置している。令和7年時点で、市内23箇所に設置 ● Rボックス型不要品回収システム「R-LOOP(アールループ)」は、所定のボックスに不要になった衣類や雑貨を入れるだけで、簡単にリユースやリサイクルに繋がられるサービス ● 衣替えで不要になった洋服や棚にしまったままの雑貨など、身近に設置されているボックスに入れるだけで、捨てずに環境にやさしい活動に貢献 ● 回収後は、検品を経てブックオフグループの海外リユースショップ「Jalan Jalan Japan（ジャラン・ジャラン・ジャパン）」で販売されるほか、販売基準に満たない繊維製品は、パートナー企業が再生資源としてリサイクルする。また、リユース量1kgあたり1円がNPO法人など任意の団体に寄付 ● 回収後は、反毛やマテリアルリサイクルによる繊維への循環をし、パレット化や粉碎によって、成形物への循環も可能。 ● この「R-LOOP」はBOOKOFF店舗のほか、マルイや東横インといった商業・宿泊施設、オフィス、教育機関など、サービス開始から6か月で拠点数約200か所と全国的に拡大

1-3 リユース機会の提供

自治体	京都市
内容	使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」
説明	● 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」は、京都市支援のもと、行政、市内企業が集まり開始。民間アパレル企業を中心に家庭で不要となった衣類を回収する衣服回収ボックスを地域内の拠点に設置し、回収した衣服のうち再利用可能なものは販売・寄付し、再利用できないものも資源として活用することで、再び循環させることを目指す。 ● 「RELEASE&CATCH」プロジェクトの取組の一環として開催されたのが、「循環フェス」であり、テーマは「古着の回収と再循環のお祭り」 ● 「お祭り」というキャッチーなテーマの通り、「脱炭素」や「3R（リユース・リデュース・リサイクル）」といったキーワードを難しく捉えるのではなく、もっと身近に感じてほしい、そして若者にもそのようなカルチャーを醸成していきたい、という想いが込められたイベント ● 「循環フェス」の目玉企画である「¥0 Market」では、来場者の皆さまに「循環の輪に加わっている」ことを実感いただくことを目的に、各地の回収ボックスで回収された衣服がアパレル店のように陳列され、一人3着まで無料で持ち帰り可能 ● またイベント当日に自宅から不要な衣服を持ち込むと、その場で回収してもらうことも可能 ● 幅広い層の来場者に大好評で、数多くの捨てられるはずだった衣服が新しい所有者の手に渡る

2-2 資源回収の促進に向けた取組

自治体	京都市
内容	移動式拠点回収事業
説明	● 公園や小学校などの市民の身近な場所で、あらかじめ案内した日時に市職員が出向き、回収 ● 回収品目は、平日開催では、拠点回収の16品目に加えて、陶磁器製の食器、木の枝も回収 ● 土日祝開催では、平日の回収品目に加えて、「有害・危険ごみ」である 石油類、医薬品・農薬、化学薬品・塗料・ワックス・絵具、洗浄剤を回収 ● 実施日や内容については市のホームページで公開

自治体	渋谷区
内容	おもちゃ・食器調理器具のリユース品の海外提供
説明	● 令和5年1月頃から、おもちゃのリユース・拠点回収する取組を本格開始 ● 家庭で不用になったまだ使えるおもちゃを、区内の清掃事務所や区民施設などに設置された回収ボックス等で常時回収 ● 対象はぬいぐるみ、フィギュア、人形、プラモデル（組立の前のも含む）、模型、知育玩具、パズル、ボード及びカードゲーム、ミニカー、ラジコン、音響玩具、ボール、スポーツ用品等で回収対象外は破損、汚れのひどいもの、本、絵本、日本人形、ひな人形、ペット用品、CD・DVD等、テレビゲーム機（ソフトを含む）、部品が欠品しているもの、通電・充電が必要なもの（電池稼働品は除く）等 ● 集まったおもちゃは専門業者が回収、国内で仕分けをして国内外（タイ・カンボジアの店舗）でリユース ● 区では食器のリユースも行っている。再使用できる食器（お椀、お皿類、どんぶり、コップ、グラス類、急須、水筒、弁当箱、重箱、箸、ナイフ、フォーク、スプーン）、料理器具（なべ、フライパン、やかん等）、調理器具（調理用ボール、ざる、泡だて器、フライ返し類、おたま、しゃもじ、皮むき器、おろし器、手持ち缶切り、すり鉢、すりこぎ、まな板等） ● リサイクルバザール等のイベント会場で職員が直接回収の他、令和6年度より、清掃事務所と本町リサイクルセンターで常設回収を開始。回収したものはおもちゃと同様に国内外（タイ・カンボジアの店舗）でリユース

4-4 ごみについて関心を高める環境教育の充実

自治体	京都市
内容	ライフステージに応じた学習プログラムを提供
説明	● 京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」は、ごみ処理施設そのものを活用し整備 ● 焼却炉やごみ発電、バイオガス化施設などの迫力満点の大規模施設を間近に見学し、それらを生きた教材として最先端の環境技術を学ぶ ● また、ごみ減量や地球温暖化、生物多様性、環境面から見た地域の歴史等幅広い分野を対象として、ライフステージに応じたプログラムを作成し、体験型を中心にした子ども向けコンテンツ・インパクトのある映像等を中心にした大人向けコンテンツを各所に配置することにより、子ども・学生・大人・事業者・修学旅行生などいろいろな方が興味や好奇心を持って、楽しみながら学習